

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正五年 下半期―」

村上 こそづえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四）の日記『巽軒日記』の大正五年下半期分について引続き紹介したい。この年、長男（三子）宣光が二十二歳の若さで亡くなる。井上は六十二歳であった。なお、凡例については第31号で述べていることから割愛する。

巽軒日記

大正五年（西暦一九一六）「丙辰」下半期

七月

一日、午前、曇天、東亜協会及び日本大学より来状、○電報を岡上梁に送る、○森良三郎来る、○「タートル氏の講演に就て」六合雑誌及び東亜の光に出づ、○縫子を三井銀行へ、女中ゆふを東海銀行へ遣はす、○小宮山源太郎より来状、○午後、原達平来る、乃ち談話を筆記しむ、○金百四十四円拾銭の為換入りの書状を小宮山源太郎に送る、○今井政次来る、

乃ち談話を筆記せしむ、○書状を帝国学士院に送る、○竹内康二来る、乃ち之に写物を付与す、○書状を岡上梁に送る、○夜、服部宇之吉の歓迎会に学士会事務所に赴く、小牧昌業、古城貞吉、峰間信吉等と会見す、
二日、午前、晴天、帝国学士院に赴く、授賞式あり、大隈重信、元田肇、徳川家達、徳川達孝、徳川頼倫、土方久元等と会見す、○午后、三時半頃帰宅、○不在中計見東山来る、○大野太衛より来状、○原達平より原稿を送来る、○タートル講演批評、新人に出づ、○原稿を訂正す、○藤井健治郎より漬物壺樽を送来る、○夜、市川源三来る、○原達平より来状、○原稿を原達平に送る、○「申命記」及び「詩経」を読む、○此日、文科大学より来状、○清子、高子等と動物園に赴く、
三日、午前、晴天、教授会に山上御殿に赴く、○午后、一時半頃帰宅、○不在中林泰輔来る、○岩井勇藏来る、○宮本覚純、土井壯良、東亜協会々員となる、○大野太衛、武藤儀亮より来状、○書状を久保良澄に送る、○「申命記」を読む、○「林

泰輔に関する談話」東京日々に出づ、○夜、峯間信吉、伊藤吉之助来る、○「優波尼沙土物語」の序を草す、

四日、午前、半晴、藤井健治郎来る、○「優波尼沙土物語」の序を草す、○山崎洋服店より来状、○午后、文部省より使者来る、○教員検定委員会臨時委員被仰付（七月三日）○三枝光太郎及び杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○金港堂より印税を送来る、○友枝高彦来る、○三井銀行に赴き、尋いで大学図書館に到る、○縫子、吉田宅に赴く、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○不在中文学者より中元の贈物来る、○モートン、プリンス及び堀内尚同并にLondon Times 社より来状、○「日本経済叢書」を送来る、○文部省より書類来る、五日、午前、曇天、「申命記」を読む、○教授会に山上御殿に赴く、○午后、引続き教授会に臨む、○不在中加藤駒二来る、○帝国学士院、辻本卯藏、計見東山及び文部省より来状、○文部省より「宗教要覧」を送来る、○夜、光風館の招きに応じて田端の自笑亭に赴く、峯間信吉外二名来る、○雨、六日、午前、曇天、杉山直喜より速記を送来る、○澁澤栄一より来状、○木村龍寛来る、乃ち之に序文を付与す、○計見東山、藤岡藏六来る、○伊藤秀吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「申命記」を読む、○午后、広文堂より風呂敷を送来る、○書状を山崎達之輔及び桑木嚴翼に送る、○塩谷温来る、○運動に小石川台町方面に赴く、○服部宇之吉より「東洋倫理綱要」を送来る、○夜、大倉書店より来状、○速記を訂正す、○此日、製本屋来る、

七日、午前、曇天、鈴木弘、波多野精一、島本愛之助、征矢野晃雄来る、○「申命記」を読む、○祝物を水道町の押田宅に贈る、○速記を訂正す、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○兒玉竈太郎、茶器壺箱を携来る、○島本愛之助より来状、○浅井綱雄、藤本眞光、高野傳五郎、瀬尾武次郎、東亜協会々員となる、○村川繁太郎より来状、○夜、山口察常来る、○「詩経」を読む、

八日、午前、晴天、「申命記」を読む、○電話使用料金一六、五〇を郵便局に納む、○製本屋来る、○梶口徳次郎より来状、○飯田義七より「勇猛精進」三冊を送来る、○「哲学と宗教」勇猛精進に出づ、○「敬字詩集」を読む、○速記を訂正す、○午后、速記を訂正して之を三枝光太郎に送る、○哲学卒業生及び其他より来状、○梶口徳次郎より小包を送来る、○吉田豊吉より来状、○夜、丁酉倫理会に赴く、蟹江義丸十三年忌の為なり、○岡上梁及び東津秀子より来状、○此日、橘恵勝より林檎壺箱を送来る、○日露協約発表せらる、九日、午前、曇天、橘恵勝より来状、○「申命記」を読む、○山内計作、十時彌、島本愛之助、上野竈太郎来る、○磯江潤より菓子壺箱を送来る、○菊池大麓より「大学問題に就て」を送来る、○午后、速記を訂正す、○蓮沼門三、藤田季莊来る、○夜、哲学科卒業学生の謝恩会に西川洋食部に赴く、○同文館より文房具を、日本経済叢書刊行会より団扇を送来る、十日、午前、曇天、卒業式に大学に赴く、○富井政章、佐々木忠次郎等と会談す、○北澤写真館に入りて撮影す、○不在中

柏原文太郎、贈物を携来る、○午后、「申命記」を読む、○岩井勇藏来る、乃ち之に反物を付与す、○小雨、○森良三郎中元の贈物を携来る、○速記を訂正す、○花見喜代次、敷島沓箱を携来る、○島本愛之助より葡萄酒半打を送来る、○驟雨、○竹内康二写物を携来る、○夜、休養、○此頃、「大日本仏教全書」を送来る、

十一日、午前、晴天、伊藤秀吉より筆記を送来る、○杉浦初太郎より来状、○高木武、岡島誘来る、○書状を岡上梁及び小宮山源太郎に送る、○書状を鹿田静七に送る、○筆記を訂正す、○藤田季莊より来状、○午后、光風館より硯箱を送来る、○「申命記」を読む、○速記を訂正す、○廣井辰太郎来る、○法貴慶次郎より菓子沓箱を送来る、○林平次郎よりハンケチ沓打を、姉崎宅より菓子沓箱を送来る、○夜、速記を訂正す、○旭野慧憲の計報来る、○書状を旭野晃に送る、○尹文子を読む、○此日、菓子を一宮弘人に、反物を源七に送る、○「日本国粹全書」第十六輯を送来る、

十二日、午前、雨天、原稿を谷田三郎に送る、○金三、○中村清二に送る、○教授会に山上御殿に赴く、○午后、四時半頃帰宅、○前川文栄閣及び弘道館より各々サイダー沓箱を、文明協会より食卓用テーブルカケを送来る、○小池橋太郎及び婦一協会より来状、○貞金近松よりビール沓打券を、田邊禎夫より砂糖沓樽を送来る、○「申命記」を読む、晩成処より中元の贈物を送来る、○夜、モルトン、プリンスの招待に帝国ホテルに赴く、宮岡恒次郎、福岡秀猪、成瀬仁藏、黒岩

周六等と会见す、○近成多一より来状、○上田敏の計報来る、○此日、贈物を御殿場番人に送る、○珍書同好会より「橋隴文集」を送来る、

十三日、午前、曇天、蟹江操子より来状、○富山房より中元の贈物を送来る、○「申命記」を読りて「約書亜記」を読む、○雨、○縫子、女中ゆふを従へて買物に外出す、○六盟館よりハンケチ二打を送来る、○尹文子を読む、○午后、尹文子を読了す、○深作安文より砂糖と「実践倫理要義」とを送来る、○中田栄吉、四宮兼之来る、○中元の贈物を大久保の田邊、柏原文太郎及び森良三郎に送る、○鬻子を読む、○浅倉屋より菓子沓箱を送来る、○大倉書店よりビール沓打を送来る、○上田敏の葬式に谷中斎場に赴く、坪内雄藏、森林太郎、江原素六、新村出、狩野直喜等と会见す、○夜、鬻子を読む、○丸善よりビール沓打券を送来る、○速記を訂正す、

十四日、午前、半晴、「約書亜記」を読む、○近藤哲雄、土田誠一、蜂谷秀吉来る、○鹿田静七より、「長沼澹齋行状記」と「薇山文稿」とを送来る、○「長沼澹齋行状記」を読む、○「国民道徳要領」二冊を購入す、○原亮一郎より漬物沓樽を、齋藤基次郎より正宗沓箱を送来る、○中元の贈物を桂辨三、田中次郎及び十時弥に送る、○午后、「薇山文稿」を読む、○甫守謹吾より来状、○在英国補永茂助より Evening Times & Echo を送来る、○文部省に赴く、○雨、○博文館よりビール沓箱を送来る、○鬻子を読む、○上野陽一より校正を送来る、○夜、原稿と書状とを上野陽一に送る、○鬻子

を讀了す、○吉田雪子来る、

十五日、午前、半晴、速記を訂正す、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○縫子、大久保の田邊宅に赴く、○深作安文来る、

○「約書亜記」を読む、○木村龍寛、ビール壺箱と「優波尼沙土物語」とを携来る、○午后、笹川及び吉田修夫より各々ビール半打を送来る、○大嶋正徳来る、○速記を訂正す、○益之進胃弱を患ふ、渡邊真来診す、○三枝光太郎、東亜協会々員となる、○濫澤栄一及び中野武営の招待により Morton Prince の送別会に帝国ホテルに赴く、目賀田種太郎、金子堅太郎、新渡戸稻造、増田義一、大倉喜八郎等と会談す、○夜、十時頃帰宅、○上野陽一及び三枝光太郎より来状、

十六日、午前、晴天、柏原文太郎妻及び姉崎老母来る、○「約書亜記」を読む、○山内計作来る、○午后、「約書亜記」を読む、○書状を岡上梁、伊藤秀吉、三枝光太郎、伊藤秀吉、新渡戸稻造等に送る、○速記を訂正す、○運動に巢鴨方面に出づ、○夜、速記を訂正す、○書状を山口龍藏に送る、

十七日、午前、半晴、縫子、八時三十分の特急に駕し、東京駅より福岡市に向ふ、○修養団本部より来状、○成瀬仁藏よりタゴールの The Spirit of Japan を送来る、○「約書亜記」を読む、○桂辨三より赤葡萄二罇を送来る、○午后、「国民道德概論」を訂正す、○岩井勇藏来る、○豊田實、東亜協会々員となる、○「噫、衰へたるかな、国民道德」やまと新聞に出づ、○電報を田邊春枝に送る、○藤田季莊来る、○礼状を成瀬仁藏に送る、○夜、「国民道德概論」を訂正す、○書状をやま

と新聞社に送る、

十八日、午前、晴天、岡上梁、近藤哲雄及び山口龍藏より来状、○O. Rosenberg より「漢字典」と「仏教研究名辞集」とを送来る、○宮本和吉来る、○「約書亜記」を読む、○書状を林泰輔、小宮山源太郎、山口察常及びローゼンベルグに送る、○Erie Matchnikoff 逝去（十五日）の報あり、享年七十二、○蓮沼門三来る、○午后、「国民道德概論」を訂正す、○加藤文雄来る、○中島利一郎より来状、○「噫、衰へたる、国民道德」やまと新聞に出づ、○夜、半澤玉城より来状、○原稿と書状とを半澤玉城に送る、○雷鳴小雨、○書状を加藤文雄に送る、○「国民道德概論」を訂正す、

十九日、午前、晴天、田邊禎夫、島本愛之助、田邊浩、林泰輔及び大倉書店々員来る、○「約書亜記」を読む、○井上成美よりビール壺打券を、吉田静致より菓子壺箱と「国民道德要領」とを送来る、○午后、「約書亜記」を読む、○「国民道德概論」を訂正す、○書書を島本愛之助に送る、○夜、帰一協会に中央亭に赴く、豊川良平、水野鍊太郎、高木壬太郎等と会談す、○不在中製本屋、菓物壺箱を携来る、○此日、福岡市東林寺に於て養父井上鐵英二十五年の法事を行ふ、○佐々井信太郎より書状及び「報徳教の根本義」を送来る、二十日、午前、晴天、山口察常、柴田義教及び実業之日本社より来状、○「約書亜記」を読む、○南波登發来る、○書状を鹿田静七及びやまと新聞社に送る、○製本屋来る、○「文字」を読む、○書状を佐々井信太郎に送る、○午后、「文字」を

読む、○速記を訂正す、○「噫、衰へたる、国民道徳」やまと新聞に出づ、○運動に巢鴨方面に出づ、○縫子より来状、○夜、松村任三より「語原類解」を送来る、○福岡県教育会長武谷水城より来状、○「大戦後の国民教育に就て」福岡県教育会々報に出づ、○中島利一郎より来状、○押田翼母及び安子来る、○速記を訂正す、○此日、日露協約祝賀会、上野精養軒に開催せらる、○Dr. Morton Princeより来状、

廿一日、午前、晴天、書状を山口龍藏に送る、○Bergson, Matter and Memory を読む、○島本愛之助、近藤哲雄来る、○向井又藏来る、有故不遇、○書庫を整理す、○午后、林泰輔、中島利一郎、半澤玉城、高瀬武次郎より来状、○引続き Bergson, Matter and Memory を読む、○岩井勇藏来る、○「約書重記」を読了す、○文子を読む、○独逸協会学校より来状、○「噫、衰へたる、国民道徳」やまと新聞に出づ、○「神社は宗教的機関にあらざるか」皇道に出づ、○文明協会より「戦時及戦後の経済」を送来る、○夜、縫子より電報来る、○文子を読む、○阿部維巖より来状、速記を訂正す、

廿二日、午前、晴天、小笠原實成より来状、○書状を松井茂及び阿部維巖に送る、○井上經重来る、○書状を林泰輔に送る、○Bergson, Matter and Memory を読む、○山口察常及び大倉書店員来る、○「噫、衰へたる、国民道徳」やまと新聞に出づ、○午后、丸善に大英百辞典の予約を申込む、○引続き Bergson, Matter and Memory を読む、○山口龍藏及び有賀敦義より来状、○植木屋来る、○文子を読了す、○夜、「士

師記」を読む、○縫子、福岡市より帰る、○Tagore, The Spirit of Japan 及び「朱子心学録」を読む、○此日、鈴木弘来る、

廿三日、午前、晴天、藤岡勝二、大島直治、高木武、市村瓊次郎来る、○鈴木三重吉妻の訃報来る、○斯文学会より来状、○午后、板垣絹子、贈物を携来る、○Tagore, The Spirit of Japan を読む、○原稿を有終会に送る、○書状を山口龍藏に送る、○「士師記」を読む、○押田安子、法学士三宅航一と結婚式を日比谷大神宮に挙ぐ、○「井上哲次郎流の漢学」鳥獸文に出づ、○書状を鈴木三重吉に送る、○原稿を訂正す、○吉田豊吉より来状、○夜、久保良澄より来状、○原稿を訂正す、

廿四日、午前、半晴、小雨、益之進、高子、女中のぶと御殿場別荘に赴く、○甫守謹吾来る、○雑誌類を整理す、○井上静香来る、有故不遇、○正勝を大学に遣はす、○縫子、柏原文太郎及び齋藤省三宅を訪ふ、○午后、陰晴不定、井上經重来る、乃ち談話を筆記せしむ、○宮嶋麗子来る、○縫子、姉崎及び吉田宅に赴く、○運動に大塚方面に赴く、○書状を松山堂に送る、○夜、「教界春秋」を草す、○吉田熊次夫妻来る、廿五日、午前、半晴、東京府属峯村金作来る、○「教界春秋」を草す、○宅地租金七、五八府税市税金二、五七合計金一〇、一五を郵便局に納む、○尾上八郎、団扇と「遠樹」とを携来る、○新保徳壽より来状、○大倉書店より原稿を送来る、○午后、鈴木栄弥、小中村清名、岩井勇藏来る、○正勝、

御殿場別荘に赴く、○「教界春秋」を速達にて日清印刷に送る、○大倉喜八郎の使者来る、○「士師記」を読む、○藤田定市より来状、○夜、「国民道德概論」を訂正す、○書状を山口察常に送る、○「古事記伝」を読む、

廿六日、午前、半晴、有風、速記を黒澤逸郎に送る、○出口鏡来る、有故不遇、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○齋藤愛子来る、○書斎を整理す、○益之進より縫子に来状、○廣島秀太郎より来状、○午后、原稿を島本愛之助に送る、○「日本経済叢書」を送来る、○午后、曇天、書斎を整理す、○「士師記」を読む、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○亀谷聖馨より来状、○書状を製本屋に送る、○夜、縫子、吉田宅に赴く、○書状を文科大学に送る、○雨、廿七日、午前、雨天、有風、岩橋遵成、小笠原実成、山口察常来る、○野中元三郎、木村来太郎及び平松時賢より来状、○書状を野中元三郎に送る、○午后、「宗教研究」を読む、○毛利八良平来る、○「士師記」を読む、○製本屋来る、○八木光貫、三成慶太郎より来状、○夜、「国民道德概論」を訂正す、○文科大学、市村瓊次郎及び鈴木俊行より来状、○「丁酉倫理」を読む、

廿八日、午前、雨天、藤田定市より来状、○八田三喜、島本愛之助、井上静香、宮島麗子、吉田雪子来る、○文科大学の使者来る、乃ち之に書類を付与す、○「士師記」を読む、○「国民道德概論」二百部の奥附を三省堂に付与す、○文科大学、富岡永馬、木村金之助、山口龍藏より来状、○午后「士師記」

を読む、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○床屋に赴く、○「大国民」を読む、○「鼠璞十種」(第二)を送来る、○島本愛之助より来状、

廿九日、午前、雨天、有風、松山直藏、大倉書店及び六盟館より来状、○益之進より縫子に来状、○「士師記」を読了す、○書状を藤田定市及び山口察常に送る、○「大国民」を読む、○製本屋来る、○書状を木村金之助に送る、○午后、「国民道德概論」を訂正す、○書状を柴田義教に送る、○深作安文より来状、○小中村清名、菓物壺籠を携来る、○夜、風雨險悪、○「国民道德概論」を訂正す、

三十日、午前、曇天、深作安文より「国民道德要義」を送来る、○村川繁太郎より来状、○書状を鈴木栄弥及び深作安文に送る、○得能文、堀内尚同来る、○中熊直喜より来状、○縫子、大久保に赴く、○午后、雑誌類を整理す、○計見東山、阿部莊二、三宅航一、全安子来る、○「路得記」及び「丁酉倫理」を読む、○岩崎歌郎より来状、○夜、藤田季莊、伊藤吉之助来る、○松田孫治郎より来状、○此日、製本屋来る、

卅一日、午前、晴天、渡邊貞五郎及び浩々居より来状、○書状を竹内康二に送る、○「東亜の光」(十一の八)成る、○湯島切通の南山堂に赴き、尋いで芳賀矢一、田代義徳、岡田和一郎、全和子の洋行を送る為に東京駅に赴く、○石黒忠恵、エリシエフ、福原繚次郎、濱尾新、隈川宗雄等と会談す、○午后、三浦謹之助、三宅鑑一及び其家族と中央亭に会食す、○不在中岩井勇藏及び小中村清名来る、○修養団より水蜜枣

籠を送来る、○南山堂より「精神病学集要」及び松本高三郎の「精神病学」を送来る、○「精神病学集要」を読む、○夜、吉田熊次宅に赴く、三宅鑛一亦来る、

八月

一日、午前、晴天、岡野義三郎、芳賀矢一より来状、○岩井勇藏、森良三郎来る、○上田恭輔、東亜協会々員となる、○野井楨太郎より来状、○竹内康二来る、○江戸川方面に赴き、盆栽を求めて帰る、○金原善三郎より来状、○午后、書状を井上正勝及び蓮沼門三に送る、○吉田熊次、三宅鑛一来る、○「撤母耳前書」を読む、○遠山政三、西澤富則、中城陟、山口龍藏より来状、○夜、書状を遠山政三及び中城陟に送る、○「夏休を何とする」青年雑誌に出づ、

二日、午前、晴天、一〇、一〇東京駅出発、渡邊世祐及び他と汽車中に会談す、○午后、二、一一御殿場着、直に別荘に赴く、○小宮山源太郎来る、○留守宅青柳巖雄、鈴木三重吉、吉利純、征矢野晃雄等より来状、○中城陟来る、○有馬祐政の使者、菓子壺箱を携来る、○栢原文太郎、吉田熊次、村松清陰来る、○大学より「大日本史料」を送来る、

三日、午前、晴天、小宮山源太郎父子来る、○午后、三、一九御殿場出発、「東亜の光」を読む、○六、五五東京駅着、○夜、休養、○此日、吉田静致、柴田義教、松浦一等より来状、○小雨、○深作安文、竹林規矩夫より来状、○遠藤隆吉より「日本国粹全書」(第三輯)を送来る、○此頃、宣光有病、

四日、午前、晴天、川越守男より来状、羽場順承、村松清陰、

島本愛之助来る、○「撤母耳前書」を読む、○阿部重孝、横田郷助より来状、○午后、「撤母耳前書」を読む、○樋口龍峽より来状、○修養団より電報来る、○書状を兒玉実徳及び中城陟に送る、○加藤玄智、原安三郎より来状、○九段方面に赴き、錦華鳥二羽を買求む、○夜、鹿島増藏より来状、○書状を鹿島増藏に送る、○小雨、○原稿を訂正す、○此日、植木屋来る、

五日、午前、半晴、山崎亀太郎、蓮沼門三、笹倉新治、藤田季莊、上岡市太郎、四宮兼之より来状、○有馬祐政、中城陟、神戸清来る、○燕臺風雅等凡そ拾壺部を松山堂より購入す、○書状を山崎亀太郎に送る、○午后、「仏教大辞典」の序を草す、○若木貞一来る、○大倉書店員来る、乃ち之に「仏教大辞典」の序を付与す、○「撤母耳前書」を読む、○五味亮太来る、○夜、「東亜の光」を読む、○妹尾勇吉より来状、

六日、午前、半晴、栗林己巳藏より来状、○村澤喜代人代理中島壽及び森良三郎来る、○米国政府は丁抹より西印度諸島(セント・トーマス、サンタ・クルーズ及びセント・ジョン)を二千五百万弗にて購入せりとの報あり、○堀内尚同、菓子壺箱を携来る、○田中三津男より来状、○書状を神戸清及び五味亮太に送る、○原稿と写真とを羽場順承に付与す、○午后、陰晴不定、「撤母耳前書」を読む、○片岡久太郎、其長男を拉して来る、○「学生宝鑑」を訂正す、○夜、江部淳夫より来状、○「歴史地理」を読む、○修養団より来状、

七日、午前、晴天、吉田熊次夫妻及び藤田季莊より来状、○「撤

母耳前書」を読む、○竹本長吉来る、○書斎を整理す、○雑誌類を読む、○瀨家熊雄より来状、○午后、雷鳴、縫子、御殿場別荘に赴く、○修養団より電報来る、○金港堂員櫛引成太来る、○Plato, Phaedoを読む、○夜、庵谷盛太郎より「選挙之革正」を送来る、○「学生宝鑑」を訂正す、○Plato, Phaedoを読む、

八日、午前、半晴、原田為市及び鹿島増藏より来状、○中島壽、山田次郎吉、井上成美来る、○海軍大将男爵上村彦之丞昨日逝くの報あり、享年六十八、○「撤母耳前書」を読む、○午后、引続き「撤母耳前書」を読む、○雑誌類を読む、○「菜根譚」を読む、○運動に大塚方面に出づ、○松尾円治より来状、○地震、○夜、Plato, Phaedoを読了す、○「続日本記」を読む、○文部省及び文科大学より来状、○此日、植木屋来る、

九日、午前、雨天、大倉書店及び神戸清より来状、○「撤母耳前書」を読む、○書状を山崎亀太郎及び神戸清に送る、○校正を大倉書店に送る、○半晴となる、○「続日本記」を読む、○書状を鹿島増藏に送る、○六合雜誌社より来状、○午后、陰晴不定、書斎の整理をなす、○製本屋来る、○書状を松山堂に送る、○岩井勇藏来る、○夜、石橋智信より来状、○鹿島増藏来る、乃ち談話を筆記せしむ、○Plato, Protagorasを読む、○歯痛を思ふ、○夜半雷鳴、○此日、竹内康二来る、

十日、午前、陰晴不定、井上縫子、大野太衛、田中義能、より来状、○齋藤阿具より書状と印刷物とを送来る、○書状を縫子及び齋藤阿具に送る、○高野敬録来る、○Plato, Protagoras

を読む、○雷雨、○兒玉実徳より来状、○午后、「撤母耳前書」を読む、○中城陟より来状、○井川作之助、朝比奈知泉の紹介状を携来る、○「退食閒話」及び「続日本記」を読む、○夜、「正蒙」を読む、○縫子、御殿場より帰来る、

十一日、午前、曇天、有風、吉田豊吉、高野敬録来る、○大学の歯科に赴く、○不在中島本愛之助来る、○「撤母耳前書」を読む、○松山堂より「帝範臣軌」外二三書類を送来る、○午后、引続き「撤母耳前書」を読む、○Plato, Protagorasを読む、○運動に西大久保方面に赴く、○不在中修養団員来る、○夜、野田義夫及び北尾日大より来状、○「正蒙」を読了りて「象山語録」を読む、○雨、○「国民道德研究の必要」丁酉倫理に出づ、

十二日、午前、曇天、大学の歯科に赴く、○山口察常来る、○「撤母耳前書」を読む、○不在中島本愛之助来る、○阿部維巖及び山上佐平次より来状、○「象山語録」を読む、○午后、書状を中島徳藏及び木村来太郎に送る、○修養団員来る、○島本愛之助来る、乃ち之に高橋龍雄の原稿を付与す、○村澤悦雄より来状、○文学士村澤喜代人逝く、○運動に巢鴨方面に赴く、○伊藤秀吉、人を遣はして、御礼を送来る、○夜、一文を草して富士山下の修養団講習会に送る、○「一夫一婦の道」廓清に出づ、○雨、

十三日、午前、曇天、有風、修養団より来状、○高野敬録来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「撤母耳前書」を読了す、○「象山語録」を読む、○「帝範臣軌」及び「公羊穀梁」二伝を購

入す、○堀内尚同来る、○午后、速記を訂正す、○高野敬録の筆記を訂正す、○吉田豊吉及び八田三喜より来状、○伊藤秀吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「象山語録」を読む、○夜、原稿を中央公論社の使者に付与す、○書状を島本愛之助に送る、○伊藤吉之助来る、○雨、

十四日、午前、晴天、有風、入澤宗壽、菓子壺箱を携来る、○大学の歯科に赴く、○伊藤秀吉より筆記来る、○綿貫哲雄より来状、○大倉書店より校正来る、○校正を大倉書店に送る、○税務署より所得税通知書来る、○午后、一、四〇東京駅出發、車中廣池千九郎と会谈す、○五、四二御殿場着、直に別荘に赴く、○夜、休養、○月色如昼、児女大に庭園に遊ぶ、十五日、午前、晴天、速記を訂正す、○「東亜の光」を読む、○午后、「東亜の光」を読む、○書状を縫子及び島本愛之助に送る、○原稿を伊藤秀吉に送る、○天曇る、○児輩を拉して山野の間に逍遙す、○歯痛少しく軽快、○夜、休養、○夜、歯痛又起る、○留守宅鹿島増藏、橋本文壽、森山章之丞、澁澤栄一、より来状、○鹿島増藏より原稿を送来る、○岩井勇藏来る、

十六日、午前、晴天、山崎亀太郎、山出半次郎来る、○一、五〇御殿場出發、○午后、一、五〇東京駅着、○歯科医門石に駿河台に赴く、○埴任より来状、○文部省より印刷物を送来る、○夜、書状を山崎亀太郎に送る、○歯痛の為に休養、○此日、竹本長吉来る、

十七日、午前、晴天、修養団より来状、○「撤母耳後書」を讀

む、○宮本和吉来る、○蓮沼門三より来状、○「象山語録」を読む、○午后、歯科医門石に赴く、○大倉書店より校正来る、○校正を大倉書店に送る、○文明協会より「結婚と両性問題」を送来る、○「象山語録」及び「画聖雲舟」を読む、○夜、「画聖雲舟」を読む、○「続日本記」を読む、○歯痛軽快、

十八日、午前、晴天、「撤母耳後書」を読む、○宮本和吉来る、○大文館より写真を返来る、○「続日本記」を読む、○午后、「続日本記」を読む、○柏原文太郎来る、○中村孝也より来状、○歯科医門石に赴く、○「象山語録」を読む、○夜、原稿を訂正す、○正勝、御殿場より帰る、○原稿を同文館に送る、○吉田豊吉より来状、○此日、「日本経済叢書」を送来る、十九日、午前、雨天、伊藤常次郎、市川喜七より来状、○「撤母耳後書」を読む、○歯科医門石に赴く、○井上俊雄より来状、○午后、十時彌来る、○「撤母耳後書」を読む、○「続日本記」を読む、○縫子、菓子壺箱を携へて十時弥宅に赴く、○「近思録解題」を訂正して之を富山房に送る、○夜、加地国平来る、○小林正策より来状、○「象山語録」を読む、○此日、篠田義信より来状、

二十日、午前、晴天、宮崎道正の計報来る、○「撤母耳後書」を読む、○岩橋遵成来る、○歯科医門石に赴く、帰途小山良子と会谈す、○「象山語録」を読む、○吉田雪子来る、○午后、珍書同好会より「紅毛天地二図説」を送来る、○「象山語録」を読む、○書状を水野鍊太郎及び田所美治に送る、○運

動に大塚方面に出づ、○夜、高橋穰より来状、○Bergson, Matter and Memory を読む、○Platon, Protagoras 及び「礼器」を読む、

廿一日、午前、曇天、吉田修夫より来状、○富山房員来る、○「撤母耳後書」を読む、○「華嚴経」を読む、○歯科医門石に赴く、○不在中遠藤隆吉来る、○深作安文、大峽秀栄より来状、○Henri Bergson, Matter and Memory を読む、○午后、岩井勇藏、島本愛之助来る、○文部省より検定答案来る、○引続き Bergson, Matter and Memory を読む、○小山良子より漬物を送来る、○検定答案を読む、○夜、検定答案を読む、○Plato, Protagoras を読む、○「華嚴経」及び「郊特性」を読む、○愛知県知事松井茂より来状、

廿二日、午前、雨天、Henry Clifford Stuart より A Prophet in his own Country を送来る、○「撤母耳後書」を了す、○歯科医門石に赴く、○「列王紀略上」を読む、○「華嚴経」を読む、○午后、Henri Bergson, Matter and Memory を読む、○「日本大藏経」を送来る、○修養団より来状、○「喪服小記」を読む、○夜、「喪服小記」を了す、○Harald Höfding, Modern Philosophers を読む、○島本愛之助より来状、○「象山語録」を読む、○此日、阿部維巖、別荘に來訪す、

廿三日、午前、雨天、「列王紀略上」を読む、○女中ゆふを大に遣はす、○「教界春秋」を草す、○雨歇む、○午后、雨天、「教界春秋」を草す、○常盤大定より来状、○原稿を日

清印刷に送る、○「日本国粹全書」(第十輯)を送来る、○手塚光貴より来状、○「儒教の女性観」婦人公論に出づ、○「大伝」を読む、○夜、「少儀」を了す、○吉田雪子来る、○益之進、高子、御殿場別荘より帰来る、○阿部維巖より椎茸を、加藤玄智より菓子を送来る、○東山別荘の写真、淑女画報に出づ、○Höfding, Modern Philosophers を読む、

廿四日、午前、曇天、阿部維巖、小林正策等より来状、○押田よの来る、○「列王紀略上」を読む、○「神学之研究」を送来る、○歯科医門石に赴く、○天霽る、○「象山語録」を読む、○午后、晴天、書状を島本愛之助に送る、○増田惟茂、渡邊徹来る、○「楽記」を読む、○日清印刷より「東亜の光」口絵来る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○書状を山崎亀太郎及び小宮山源太郎に送る、○島本愛之助より報告書来る、○夜、「楽記」を読む、○「続日本紀」を読む、廿五日、午前、晴天、西山全太郎、旭野晃、及び谷地図書館より来状、豊田臻、島本愛之助、西洞道野、堀内尚同来る、○「列王紀略上」及び「楽記」を読む、○午后、曇天、「楽記」を了す、○書状を岡野義三郎、横田郷助、上岡市太郎、笹倉新治、中熊直喜、吉田静致、西澤富則、松浦一、田中義能、野田義夫、高橋穰、原田為市に送る、○歯科医門石に赴く、○多木悦造より来状、○「華嚴経」を読む、○遠雷、○夜、島本愛之助より来状、○日清印刷より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を栗林己巳藏、八木光貫、新保徳壽、多木悦造、江部淳夫、富岡永馬、吉田修夫、石橋智信、松山

直藏、小澤錦十郎、橋本文壽、深作安文に送る、○
Höfding, Modern Philosophers を読む、

廿六日、午前、曇天、大日本雄弁会より来状、○女中ゆふを東
海銀行に遣はす、○「列王紀略上」を読む、○書状を鈴木俊
行、加藤玄智、竹林規矩夫、亀谷聖馨、松田孫四郎に送る、
○歯科医門石に赴く、○吉川たみ、縫子に来訪す、○「象山
語録」を読む、○縫子、小包を山口龍藏に送る、○午后、「象
山語録」を読む、○書状を吉利純、綿貫哲雄、濱家熊雄、阿
部維巖、大峽秀栄、青柳巖雄に送る、○上野彦松来る、○「国
民道德概論」を訂正す、○「祭法」を読む、○山本誠兵衛よ
り来状、○講和大要、仙台県立高等女学校「友の葉」に出づ、
○夜、「祭義」を読む、○書状を山崎貞一郎に送る、○「続
日本紀」を読む、

廿七日、午前、晴天、旅行中の吉田熊次より来状、○「江戸時
代文芸資料」(第二)を送来る、○高木武、堀謙徳、竹本長
吉等来る、○「列王紀略上」を読む、○島本愛之助より葡萄
苺籠を送来る、○縫子、益之進を拉して神田の医師に赴く、
○「祭義」を読む、○午后「祭義」を読了し、更に「祭統」
を読む、○書状を遠藤隆吉に送る、○「国民道德概論」を訂
正す、○運動に大塚方面に出づ、○「象山語録」を読む、○
勇雄病あり、渡邊真来診す、○不在中製本屋来る、○夜、河
井朝雄より来状、○Höfding, Modern Philosophers を読む、
○川田鍊彌、使者を遣はし、書状を送来る、○「華嚴経」を
読む、

廿八日、午前、晴天、「列王紀略上」を読む、○川田鍊彌の漢
文を添削す、○「象山語録」及び「楽統」を読む、○山崎龜
太郎より来状、○地震、○午后、川田鍊彌、岩井勇藏来る、
○「経解」を読了す、○歯科医門石に赴く、○「国民道德と
基督教」を読む、○勇雄軽快、○夜、「国民道德と基督教」
を読む、○Höfding, Modern Philosophers を読む、○文科
大学より来状、

廿九日、午前、晴天、貝原謙及び栗原英之助より来状、○羅馬
尼、埃洪国に対して二十七日宣戦を布告したりとの報あり、
○林勃爾来る、○縫子、吉田宅に赴く、○書状を野上俊夫に
送る、○歯科医門石に赴く、○「列王紀略上」を読む、○午
后、大に書庫内を整理す、○夜、岩橋遵成の送別会に上野精
養軒に赴く、鈴木三重吉、中川謙二郎、淺野利三郎、清水平
一郎、加藤久米四郎、泉道雄、遠藤隆吉、宇野哲人、服部宇
之吉等と会談す、○「象山語録」を読む、○此日、御殿場番
人より野菜を送来る、

三十日、午前、大日本学術協会及び其他より来状、○大文館よ
り校正を送来る、○校正を大文館に送る、○押田よの来る、
○「列王紀略上」を読了す、○岩橋遵成送別の詩を作る、日
く、満月風光天地秋。孤身好向崎陽游。商家德育今尤切。功
績当期第一流。○午后、書状を岩橋遵成に、原稿を神道出雲
教本院に送る、○歯科医門石に赴く、○「陽明学真髓」を読
む、○大倉書店より校正来る、○校正を大倉書店に送る、○
大東京社より来状、○「欧州大戦と国民道德」帝国文学に出

び、○夜、「象山語録」及び「哀公問」を読む、○Höfding, Modern Philosophersを読む、○有風、

廿一日、午前、晴天、大久保高明来る、○縫子、益之進を拉して神田の医士に赴く、○日清印刷より「東亜の光」十部を送来る、○「東亜の光」(十一の九)成る、○書状を谷地図書館及び石越図書館に送る、○午后、「儒行篇」を読む、○大倉書店より印税を送来る、○「列王紀略下」を読む、○歯科医門石に赴く、○川田鏡弥より乾葡萄と書状とを送来る、○書状を川田鏡弥に送る、○峯間信吉、国友徳芳より来状、○夜、Theodor Fechner, Ueber die Seelenfrage 及び「やま心」を読む、

九月

一日、午前、晴天、阿部維巖、山崎亀太郎、及び他より来状、○大倉書店より校正来る、○校正を大倉書店に送る、○十時彌より来状、大久保高明より「牛」及び「紺育市内外の地所」を送来る、○長谷川文明、森良三郎来る、○女中ゆふを三井銀行に遣はす、○書状を同文館及び川田鏡弥に送る、○「列王紀略下」を読む、○島本愛之助来る、○午后、「列王紀略下」を読む、○星岩治来る、不遇、○「冠義」及び「昏義」を読む、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○書状を長谷川福平に送る、○歯科医門石に赴く、○「象山語録」を読む、○製本屋来る、○野中元三郎より来状、○夜、吉田熊次夫妻来る、○Plato, Protogoras⁴⁷を読了す、○神田左京より来状、○「華厳経」を読む、○深夜、地震、

二日、午前、晴天、本化日將より来状、○「列王紀略下」を読む、○歯科医門石に赴く、○神田の書肆に立寄りて法帖三と三体広千字文とを買求む、○不在中得能文妻来る、○在秋田高島平三郎より来状、○午后、高橋里美、宇野哲人来る、○揮毫、○「列王紀略下」を読む、○書状を貝原謙に送る、○中央公論社より使者来る、○「郷飲酒義」を読む、○夜、「郷飲酒義」を読む、○雑誌「大国民」を読む、

三日、午前、雨天、岸田蒔夫、山崎貞一郎、蓮沼門三、清水文弥及び乃木会、興学会より来状、○岩橋遵成、塩谷温来る、○「列王紀略下」及び「射義」を読む、○山崎直方来る、○福原鎌二郎及び石越記念図書館より来状、○午后、「象山語録」を読了す、○揮毫、○益之進を拉して運動に大塚方面に出づ、○「二程全書」を読む、○不在中製本屋来る、○夜、書状を金龍寺の藤崎禪智に送る、○Höfding, Modern Philosophersを読む、○「二程全書」を読む、○此日、山内計作来る、

四日、午前、晴天、谷地図書館より来状、○「列王紀略下」を読む、○歯科医門石に赴く、○午后、岩井勇藏、小宮源太郎^マ来る、「燕義」を読む、○姉崎益子、小児三人を拉して来る、○「聘義」を読む、○書状を中城陟に送る、○Bergson, Matter and Memory⁴⁸を読む、○夜、吉田熊次宅に赴く、○「二程全書」を読む、○「中学漢文」を訂正す、

五日、午前、晴天、深作安文より来状、○「列王紀略下」を読む、○製本屋来る、○第三号借屋人中野林藏去る、○「喪服四制」を読む、○歯科医門石に赴く、○有風、○大野太衛よ

夜、「表記」を読了す、○「人類学雑誌」を読む、○岡上梁より宣光に電報来る、○検定答案を読む、○縫子、吉田宅に赴く、○稍々秋冷を催ふす、夜半月色如昼、

十二日、午前、曇天、小雨、秦政治郎より海魚一箱と書状とを送来る、○御殿場より野菜を送来る、○電報を岡上梁に鹿児島に送り、次いで又書状を送る、○文科大学より来状、○書状を秦政治郎及び止善書院に送る、○伊藤秀吉より使者を遣はし、御礼を送来る、○検定答案を読む、○「雑記」を読む、

○「歴代志略上」を読む、○午后、「雑記」を読む、○検定答案を読む、○小山鞆繪来る、○蓮沼門三来る、不遇、○森林太郎より来状、○益之進を拉して運動に小日向方面に赴く、○夜、検定答案を読む、○此日、製本屋来る、

十三日、午前、雨天、乃木大将祭日、四宮兼之より来状、○学習院に赴く、○千頭清臣の葬式に青山斎場に赴く、穂積陳重、中隈敬藏、徳富猪一郎、○水野鍊太郎、佐々木忠次郎等と会见す、○不在中淺野長武来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○検定答案を読む、○久保良澄より来状、○夜、検定答案を読む、○「二程全書」及び「雑記」を読む、

十四日、午前、雨天、報あり、云く、八月三十一日迄の独軍死傷数は三、三七六、一三四人にして其中八十萬以上は戦死なり。○宣光、病死す、享年二十二、○吉田熊次、竹本長吉来る、○吉田熊次と昼餐を共にす、○午后、吉川直治（警部補）と神林悌一（検疫委員）来る、○「師範修身」二百部の奥附を晚成処に付与す、○小宮山源太郎来る、○帰一協会より来

状、○村上專精より「真宗全史」と書状とを送来る、○森良三郎来る、○千頭映臣より来状、○吉田雪子来る、○電報を岡上梁に送る、○峯間信吉より来状、○夜、宣光入棺、○竹本長吉を平田盛胤宅に遣はす、○宣光の死亡通知を親戚及び特別の関係者に發送す、○吉田賢龍及び岡上梁より電報来る、

○夜半、姉崎正治来る、十五日、午前、半晴、宣光死亡の通知書数通を發送す、○電報を田邊唯司に送る、○森良三郎、井上成実、姉崎袖子、全正治、全増子、井上波野、桑木嚴翼、松本亦太郎、柏原文太郎、島本愛之助、岩井勇藏、石橋臥波、柏原文太郎妻、林勃爾、伊藤吉之助、宮坂赫宗、遠藤隆吉、等来る、○雜司ヶ谷共葬墓地等六坪の使用券を金七八、〇〇にて購入す、○斯文学会より来状、○午后、葉山萬次郎、齋藤基次郎妻、押田翼妻等来る、○二時半頃出棺、途中列を廢し、雜司ヶ谷斎場に赴き、神葬を執行す、会葬者約五十人、吉田熊次、井上成実、柏原文太郎等は落合村火葬場に到る、○地震、○来弔者約二十名、○香奠は井上成実（一〇）、今福（二）、濱本信一（二）、宮坂喆宗（二）、齋藤省三（三）、島本愛之助（一）、浦谷熊吉（一）、姉崎正治（三）、葉山萬次郎（二）、辻本卯藏（二）、桐原貞吉（二）、齋藤精輔（二）、日本百科大辞典完成会（二）、田邊禎夫（二）、押田翼（五）、一宮弘人（一）、林高美（二）、田邊為三郎（三）、総計金四七、〇〇、○柩を送来る者、吉田熊次、押田三郎、田邊唯司、柏原文太郎、外に二対、○夜、田邊唯司より電報来る、○悉く会葬者に札状を發送す、○「雑

録」を読む、○法学博士井上密の訃報来る、○久保良澄より電報来る、○「歴代志略上」を読む、

十六日、午前、曇天、縫子、正勝を拉して落合村火葬場に赴き、遺骨を携来る、○竹本長吉、宮坂喆宗来る、○高木武、香奠

(一)を、笹川貞子、香奠(三)を、常盤大定、香奠(二)

を携来る、○中島慎一、菓子料(二)を携来る、○大谷庄治来弔す、○午后、上原才一郎、香奠(三)を携来る、○丸井

圭次郎、中島徳藏、鈴木弘、宮本覚純、九鬼周造、瀨本繁子、来弔す、○伊藤吉之助より香奠(一)を送来る、○吉田熊次、

柏原文太郎妻来る、○「天壤無窮の神勅に就いて」を草す、

○齋藤基次郎、香奠(五)を、紀平正美妻、香奠(三)を携来る、○大倉保五郎より香奠(五)を送来る、香奠料総計金

七二、〇〇、○岩橋遵成より来状、○夜、鈴木某、第三号に移来る、○竹本長吉来る、○引続き、論文を草す、

十七日、午前、曇天、望月信亨及び山崎商店等より来状、○亀井忠一、香奠(五)を携来る、○計見東山来る、有故不遇、

○岩波義雄、甫守謹吾来る、○瀧精一來弔す、○金港堂より原稿を送来る、○Josiah Royce 逝去の報あり、○大島正徳妻、

茶を携来る、○樋口秀雄妻亦香奠(三)を携へて来弔す、○すみれ会より商品券五円を送来る、○午后、箕作元八来弔す、

○藤井健治郎より弔電来る、○天霽る、○得能文、菓子志箱を携来る、○高倉智海来る、乃ち口述試験を行ふ、○鳥居龍

藏来る、○論文を草す、○岩波書店より哲学叢書五冊を送来る、○魚住惇吉より来状、○夜、千葉鑛藏、香奠(三)を携

来る、○吉田賢龍、岡上梁及び造士館学友会より弔詞来る、

○田邊唯司より弔詞と香奠(五)とを送来る、○田辺春枝より縫子に來状、○「欧州大戦と国民教育」小学校に出づ、○

箕作元八より「外交時報」を送来る、○論文を草す、

十八日、午前、晴天、野田義夫、箕作元八より來状、○論文を草す、○珍書同好会より「為兼卿和歌抄」を送来る、○「大

日本仏教全書」及び巻物二軸を送来る、○所得税金四〇、三八、府税市税金七、四二、合計金四七、八〇を郵便局に納む、

○井上俊雄より弔詞来る、○書状を山崎龜太郎、小宮山源太郎及び山口龍藏に送る、○午后、岩井勇藏、森良三郎来る、

○論文を草す、○藤岡藏六来弔す、○藤井健治郎、香奠(二)を封入せる書状を送来る、○松浦一、増田惟茂来弔す、○井

上波野菓子料(三)を携へて来る、○田辺禎夫より弔詞来る、○帝国教育会より來状、○藤田季莊来る、○夜、論文を草す、

○此日、廣瀬了義来る、有故不遇、十九日、午前、晴天、峯堅雅、文科大学、日本弘道会、金龍寺

及び山崎洋服店より來状、○村上もと子より紅茶を送来る、○書状を日本弘道会及び山崎洋服店に送る、○論文を草す、

○「イオミ子キフロ」より弔電来る、○伊藤秀吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「中学漢文」二百部の奥附を光風館に

付与す、○吉田雪子来る、○午后、河野元三来弔す、○尾上八郎、香奠(二)を携へて来弔す、○龍山義亮より來状、○

論文を草す、○富田貞松より香奠(三)入りの書状を送来る、○阿部維巖より來状、○岩井勇藏、渡邊政吉来る、○野田義

夫より香奩(三)を送来る、○谷山惠林来弔す、○夜、「歴代志略上」を読む、○久保良澄及び井上すゑより来状、○書状を岡上梁に送る、○「女子修身」を訂正す、

二十日、午前、曇天、井上健兒、香奩(五)入りの書状を送来る、○吉武誠、齋藤壽七より弔状来る、○吉田修夫及び丸善等より来状、○「女子修身」を訂正す、○女中ゆふを大学に遣はし、書状と小包とを中島力造に送る、○「歴代志略上」を読む、○押田翼より弔状来る、○午后、半晴、「歴代志略上」を読む、○「女子修身」を訂正す、○中島徳藏妻香奩(二)を携へて来る、○金港堂員来る、乃ち之に「女子修身」第一巻を付与す、○岩井勇藏より来状、○書状を島本愛之助に送る、○姉崎老母、友枝高彦、市村瓊次郎来弔す、○馬上孝太郎、学習院女学部を代表し、香奩(五)を携来る、○井上淳、齋藤庸一郎、仝儀八、より弔状来る、○帝国学士院より来状、○古城貞吉母千鶴子の訃報来る、○夜、「女子修身」を訂正す、○十日祭の案内状を発送す、

廿一日、午前、晴天、加藤久米四郎及び土屋敦富より来状、○井上淳より香二箱を送来る、○書状を二松堂書店に送る、○高木武、四海民藏、押田翼母来る、○「中学漢文」を訂正す、○「歴代志略上」を読む、○午后、伊藤秀吉より筆記を送来る、○「中学漢文」を訂正す、○柏原文太郎及び押田翼内より来状、○光風館員森園豊吉来る、乃ち之に「中学漢文」二冊を付与す、○原稿を伊藤秀吉に送る、○宣光の墓表を書す、○下田次郎来弔す、○「二程全書」を読む、○金港堂員来る、

乃ち之に原稿を付与す、○大倉廣三郎印税を携来る、○姉崎ますより来状、○夜、林勃爾より来状、○書状を岩波茂雄に送る、○香奩合計金一一八、〇〇也、

廿二日、午前、晴天、富田順吉及び政喜より金三円の為換入りの書状を送来る、○井上成美、吉田充天、及び皇道遺訓国基会より来状、○島本愛之助来る、○書状を丸善と心理学会に送る、○牛方哲介来る、有故不遇、○井上成美、柏原文太郎夫妻、吉田熊次夫妻、姉崎袖子、仝増子、齋藤基次郎妻、押田翼妻、林勃爾等来る、○神官二人来りて十日祭式を行ふ、○来会者に昼餐を出す、○午后、雑司ヶ谷墓地に墓表を立て、祭式を行ふ、○中島徳藏より原稿料を送来る、○「歴代志略上」を読む、○姉崎正治より Nichiren, The Buddhist Prophet を送来る、○帝国大学、飯尾岑三郎、豊田昂及び Emilie Heck より来状、○書状を豊田昂及び大日本教育書院に送る、○二松堂より「真行草字鑑」と「六朝書道論」とを送来る、○「続日本紀」を読む、○夜、「続日本紀」を読む、○小雨、○英文神道を草す、○除服、

廿三日、秋季皇霊祭、午前、雨天、皇道遺訓国基会より「大和之礎」を送来る、○礼状を皇道遺訓国基会に送る、○岩波茂雄、山田準、柳井ハルヲより来状、○書状を柳井ハルヲ及び島本愛之助に送る、○経済雑誌社より「類聚国史」を送来る、○書状を貝原謙に送る、○香奩(三)入りの書状を古城貞吉に送る、○文部省より第四十二年報を送来る、○書状を文科大学に送る、○午后、朝永三十郎及び旭野慧憲資金募集会よ

り来状、○正勝、益之進を拉して雑司ヶ谷墓地に赴く、帰途小泉八雲の墓に謁す、○不在中大島正徳、葡萄壺籠を携来る、○松本亦太郎より来状、○「日本国粹全書」(十七)を送来る、○金港堂より原稿を送来る、○書状を増田惟茂に送る、○夜、「女子修身」を訂正す、○東洋哲学研究、

廿四日、午前、雨天、島本愛之助及び吉田豊吉より来状、○「歴代志略上」を読む、○亀井忠一父子来る、○「教界春秋」を草す、○午后、太宰施門来る、○「教界春秋」を草す、○鈴木弘、大学院報告を携来る、○礼状拾余通を発送す、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、服部宇之吉の講演あり、

廿五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○山崎亀太郎、三宅航一より来状、○不在中萩野由之香奠(二)を携来る、○「江戸時代文芸資料」を送来る、○午后、甫守謹吾、岩井勇藏来る、○有風、○武藤儀亮より帛状来る、○在京城鳥居龍藏より来状、○「現時の宗教に就いて」の談話、皇道に出づ、○「古今日本軍記文選」の序を草して之を甫守謹吾に送る、○柏原文太郎妻及び征矢野晃雄来る、○「現代の哲学者」書類を征矢野晃雄に付与す、○鈴木俊行、菓子壺箱を携へて来帛す、○大日本教育書院より「源氏物語評釈」を送来る、○井上末より来状、○「日本経済叢書」〔二〕第廿八巻を送来る、○夜、「歴代志略上」を読む、○婦一協会より香奠(三)入りの書状来る、○文部省より書状と書類とを送来る、○藤田季莊来る、

廿六日、午前、晴天、書状を帝国学士院に送る、○土田誠一來

る、○加藤久米四郎より来状、○金式円を旭野慧憲遺子教育資金募集会に送る、○Bergson, Matter and Memory を読む、○山口龍藏より来状、○書状を小山鞆繪に送る、○丸善より来状、○午后、学習院女学部より来状、○亀井忠一來る、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、○大観会より来状、○Bergson, Matter and Memory を読む、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○宗参寺に於て山鹿素行の為に法要を営む、有故不遇、○書状を甫守謹吾に送る、○温度撰氏三十度に昇る、○竹内康二より来状、○夜、心理学会開催の野上俊夫歓迎会に山上御殿に赴く、○此日、「歴代志略上」を読了す、

廿七日、午前、半晴、小宮山源太郎及び杉浦初太郎より来状、○学習院に赴く、○書状を山崎亀太郎及び小宮山源太郎に送る、○「歴代志略下」を読む、○午后、縫子、高子を拉して雑司ヶ谷に赴く、○Rudolf Eucken, Einführung in eine Philosophie des Geisteslebens を読む、○日清印刷より校正を送来る、○校正を日清印刷に送る、○帝国教育会及び丁西倫理会より来状、○文科大学より追試験の答案を送来る、○夜、引続き Einführung in eine Philosophie を読む、○書状を文科大学に送る、

廿八日、午前、曇天、帝国学士院、岡上梁及び原田為市より来状、○雨、○Rudolf Eucken, Einführung in eine Philosophie des Geisteslebens を読む、○金港堂より原稿を送来る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○今井登志喜、大学に来訪す、

○伊澤千世子及び浦谷ふみ来る、○「歴代志略下」を読む、
 ○天霽る、○牛方哲介来り、船田三平の為に書を需む、○江
 戸川印刷より校正を送来る、乃ち校正を使者を付与す、○夜、
 貝原謙より来状、○「女子修身」を訂正す、○此日、吉武静
 子より縫子に来状、○甘木のトラキより縫子に書状と香篋
 (○、五〇)を送来る、
 廿九日、午前、曇天、三上義夫、高木武来る、○服部宇之吉妻、
 商品券(二)を携へて来弔す、○松本文三郎、小山鞆繪、小
 宮山源太郎、武藤儀道、豊田昂及び鈴木周作より来状、○島
 本愛之助来る、○縫子、三越に赴く、○午后、新村喜一郎来
 る、○大橋五郎より書状と「我が日の本」を送来る、○「中
 学修身」二百五十部の奥附を文学社に付与す、○益之進を拉
 して日本美術院展覧会に赴く、○書状を姉崎正治及び島本愛
 之助に送る、○夜、勉強、○鹿兒島より宣光の荷物三箇を送
 来る、
 三十日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○土田誠一來訪す、
 ○宮坂詰宗来る、○勉強、○午后、史学に大学に赴き、「原
 始神道に就いて」約二時半間講演す、聴衆約二百名、○不在
 中高野辰之、八波則吉、鈴木古城来る、○「女子修身」第四
 巻の原稿を金港堂員に付与す、○不在中吉田熊次及び竹本長
 吉来る、○永地秀太来弔す、○夜、「歴代志略下」を読む、
 ○帝国学士院及び興学会より来状、○「礼記」を読む、
 十月
 一日、午前、曇天、松浦一、山内計作、森良三郎、四宮兼之来

る、○島本愛之助より来状、○午后、村澤喜代人の追悼会に
 鉄舟寺に赴く、木下国明、河野秀男、柿西藤一郎等会見す、
 ○山田時之助来弔す、○不在中高野定吉来る、○書状を小宮
 山源太郎及び山崎亀太郎に送る、○文明協会より「遺伝と境
 遇」を送来る、○東亜協会より来状、○高橋亨より「朝鮮人
 特性之研究」を送来る、○夜、勉強、
 二日、午前、雨天、穂積陳重、吉田豊吉より来状、○書状を小
 宮山源太郎に送る、○講義に大学に赴く、○姉崎老母来る、
 ○近藤春雄、阿部維巖及び斯文学会より来状、○菓子を吉田
 熊次、樋口秀雄、姉崎正治、一宮弘人及び向の桐原等に送る、
 ○午后、岩井勇藏、大壁早治、綿貫哲雄来る、○「歴代志略
 下」を読む、○羽場順承より「現代大家論集」を送来る、○
 「欧州の大戦と国民道德」現代大家論集に出づ、○「中学漢
 文」を訂正す、○菓子を押田翼、鈴木俊行、伊藤吉之助、亀
 井忠一、萩野由之、伊澤修二、大倉保五郎、田邊為三郎、井
 上成美、服部宇之吉、中島慎一、齋藤基次郎、濱本信一、林
 高美、上原才一郎、辻本卯藏、島本愛之助、宮坂詰宗、中島
 徳藏、千葉鑛藏、紀平正美、得能文、今福忍、常盤大定、笹
 川貞子、尾上八郎、浦谷熊吉、高木武、齋藤精輔、柏原文太
 郎、森良三郎等凡そ三十六名に送る、○夜、「東亜の光」(十一
 の十)成る、○「中学漢文」を訂正す、○「礼記」を読む、
 ○夜半、文部省の使者、書状を携来る、○此日、書状を山内
 計作に送る、
 三日、午前、雨天、文科大学、向陵会及び紀平正美より来状、

○建部遯吾、香奩(二)を携へて来弔す、○書状を岡上梁、吉田豊吉及び三宅杭一に送る、○故宣光二十日祭を行ふ、神官一名来りて式をなす、来会者、吉田雪子、姉崎益子、柏原文太郎妻の三人なり、○石川春陽より来状、○「歴代志略下」を読む、○午后、袱紗を井上健兒、全淳、全末、全成美、富田順吉、全貞松、吉武誠、田邊唯司、野田義夫、飯尾宍二郎、藤井健治郎に送る、○雜誌類を読む、○夜、峰間信吉来る、○螺山会より来状、○書状を螺山会に送る、○此日、菓子を葉山萬次郎及び大島正徳に送る、

四日、午前、曇天、高木武より来状、○学習院に赴く、○女中ゆふを文部省に遣はす、○「神勅と国」後援に出づ、○石越記念図書館に出づ、○小松弘隆三日逝くとの報道あり、享年六十八、○午后、教授会に大学に赴く、○不在中小山鞆繪来る、○縫子、正勝、益之進を拉して雑司ヶ谷に赴く、○久保良英より来状、○前田不二三来る、○書状を武藤儀道、全儀亮、近藤春雄、久保良英に送る、○中島力造より「英国功利説の研究」を受く、○四宮兼之、菊池寛来る、○同文館より御礼を送来る、○小松弘隆の訃報来る、○夜、雨天、「歴代志略下」を読む、○Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophie¹⁾を読む、

五日、午前、曇天、小山鞆繪、山崎亀太郎より来状、○Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy²⁾を読む、○大隈内閣総辞職、寺内総督大命を受くとの報あり、○勉強、○書状を山崎亀太郎に送る、○雨歇む、○午后、曇天、講義

に大学に赴く、○大学より直に故小松弘隆の葬式に芝増上寺に赴く、○不在中杉浦重剛来弔す、○「農業修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、○帝国学士院より来状、○下條信敏より来状、○光風館より原稿を送来る、○高木壬太郎、福井晋太郎等より来状、○「歴代志略下」を読む、○史学会より菓子壱箱を送来る、○夜、「歴代志略下」を読む、○「中学漢文」を訂正す、○学士院の立皇太子式の賀表を修正す、

六日、午前、曇天、前田不二三、深作安文、島本愛之助、峯間信吉、手塚光貴来る、○午后、帝国学士院の委員会に山上御殿に赴く、○目黒書店より開業廿五年の記念品を送来る、○「歴代志略下」を読む、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○書状を島本愛之助、福井晋太郎、高木壬太郎、杉浦重剛、目黒甚七に送る、○市村瓊次郎より来状、○書状を市村瓊次郎及び山口龍藏に送る、

七日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○電話使用料金一六、五〇〇也を郵便局に納む、○八波則吉、高野辰之来る、○「歴代志略下」を読む、○高瀬武次郎より来状、香奩(一)封入しあり、○午后、「歴代志略下」を読む、○「礼記」を読む、○大壁早治より来状、○田中館愛橘在職廿五年祝賀会に植物園に赴く、田中正平、桑木或雄、團琢磨、池田菊苗、富井政章、奥田義人等と会談す、○不在中松本愛重、山岸光宣来る、○山中立木より来状、○夜、八時半頃帰宅、○「礼記」を読む、○夜半、地震、

八日、午前、曇天、塚原政次及び在米国芳賀矢一より来状、○

藤井甚太郎、鈴木弘、土井壯良来る、○「神道の本義」報知新聞に出づ、○「歴代志略下」を読む、○午后、「歴代志略下」を読む、○吉田熊次来りて正勝及び益之進を拉して雑司ヶ谷墓地に赴く、○藤岡藏六、速水滉来る、○高橋亨より来状、○三上参次来る、○書状を富田仙助に送る、○「礼記」を読む、○書状を帝国学士院に送る、○夜、「礼記」を読む、○研究、○此日、田邊春枝より縫子に来状、

九日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○間野遺乗及び山崎龜太郎より来状、○「神道の本義」報知新聞に出づ、○午后、小雨、柿西藤一郎、岩井勇藏、間端吾来る、○「歴代志略下」を読む、○書状を山内計作に送る、○志村祐次郎、伊藤照肅東亜協会々員となる、○文部省より書類来る、○雑誌類を読む、○富田貞松、及び文科大学より来状、○橘惠勝より弔状と香奠(二)とを送来る、○夜、雨天、帝国学士院より来状、○雑誌類を読む、

十日、午前、曇天、亀井忠一及び其他より来状、○書状を太宰施門、市河三喜、塚原政次、小山鞆繪に送る、○「歴代志略下」を読む、○書状を丸善及び帝國教育会に送る、○午后、雨天、論文を草す、○床屋に赴く、○「古学哲学」「朱子哲学」「陽明哲学」各々五十部の奥附を富山房に付与す、○夜、藤井甚太郎より来状、○論文を草す、○書状を松本文太郎に送る、○英文神道を草す、

十一日、午前、晴天、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○井上健兒、日本弘道会及

び神風会等より来状、○「中村敬宇先生を憶ふ」東京女子高等師範記念講演集に出づ、○「神道の本義」報知新聞に出づ、○阿部莊二、菓物壺籠を携へて来弔す、○「国民道德概論」三百部の奥附を三省堂に付与す、○「歴代志略下」を読む、○丸善より洋書数種を送来る、○夜、「歴代志略下」を読む、○書状を山崎龜太郎、小宮山源太郎及び富山房に送る、○Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、

十二日、午前、曇天、書状を丸善に送る、○Wilhelm Windelband, Einleitung in die Philosophie を読む、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○小雨、○勉強、○富田仙助より来状、○ヴェルニエより贈れる「神社参拜に就いて」を読む、○午后、講義に大学に赴く、○柏原文太郎妻来る、○雨、○「歴代志略下」を読む、○夜、雨天、帝国学士院に赴く、○岩橋遵成より来状、○「歴代志略下」を読む、○此日、井上道喜より縫子に来状、

十三日、午前、雨天、阿部維巖より来状、○柏原文太郎、島本愛之助来る、○小杉熙、香奠(一)を携来る、○益之進、微恙あり、○「歴代志略下」を読了す、○午后、「以賽亜書」を読む、○教科書会に文部省に赴く、○「礼記」を読む、○夜、岡上梁より来状、○丸善より Montgomery, Leibniz, Discourse on Metaphysics を送来る、○雨歇む、○「礼記」を読む、○嶋津久基、論文を携来りて東亜協会々員となる、

十四日、午前、晴天、大学宣誓式、○書状を山崎龜太郎に送る、○論文を草す、○久保良英来る、乃ち共に西川洋食店に赴き、

昼餐を喫す、○不在中山下弥三郎、村上專精来る、○丸善より Stanley Hall, Adolescence. を送来る、○午后、重田定一、菓子菴箱と「史説史話」とを携来る、○山下勝三郎来る、有故不遇、○エツクの為に金拾円を太宰施門に付与す、○日下部常吉、岡田彦七郎来る、○清子、墓参に雑司ヶ谷に赴く、○夜、宣光三十日祭に当るを以て神官来りて式を行ふ、○文科大学々友会より来状、○「以賽垂書」を読む、十五日、午前、雨天、山崎亀太郎より来状、○永地秀太、今福忍、浦谷熊吉、山下勝三郎来る、○「以賽垂書」を読む、○縫子、児等を拉して婦人子供博覧会に赴く、○午后、哲学会に大学に赴く、○東京堂より「水戸学」を送来る、○「洪範」を読む、○雨歇む、○夜、勉強、十六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○山内計作来る、○ E. A. Gordon, Symbols of the Way を送来る、○巢山了然、及び其他より来状、○高野定吉来る、○午后、岩井勇藏、深作安文来る、○書状を孔子誕辰会及び其他に送る、○村上專精在職廿五年祝賀会に植物園に赴く、三好愛吉、吉田修夫、濱尾新等と会談す、○教育検定委員会より来状、○夜、「以賽垂書」を読む、○「礼記」を読む、十七日、午前、晴天、神嘗祭、山中立木及び丸善等より来状、○渡邊政吉来る、○帝国学士院より来状、○論文を草す、○「史説史話」を読む、○書状を高野岩三郎及び中島利一郎に送る、○午后、論文を草す、○清子、益之進と共に三越に赴く、○村上專精来る、○運動に小日向方面に出づ、○夜、論

文を草す、

十八日、午前、晴天、論文を草す、○原稿を島本愛之助に送る、○午后、久保良英来る、○日本学会案内状拾通を発送す、○昭文堂より「日本軍記文選」と商品券とを送来る、○「以賽垂書」を読む、○山下勝三郎より来状、○「袱紗」を橋惠勝、高瀬武次郎、小杉熙、間端吾に送る、○夜、「以賽垂書」を読む、○書状を山下勝三郎に送る、Bergson, Matter and Memory を読む、十九日、午前、曇天、久保良澄及び心理学会等より来状、○ Wilhelm Windelband, Geschichte der Philosophie を読む、○勉強、○在英国 Bristol 補永茂助より Daily Sketch を送来る、○午后、雨天、講義に大学に赴く、○不在中宮本和吉、及び法貴慶次郎来る、○古城貞吉より書状と贈物とを送来る、○押田翼母来る、○「以賽垂書」を読む、○「礼記」を読む、○夜、宮本和吉来る、○「礼記」を読む、○「神道の本義」鹿兒島新聞に出づ、○中島半狂より来状、○ Stanley Hall, Adolescence を読む、○「神社は、宗教的機関にあらざるか」報徳に出づ、二十日、午前、雨天、帝国学士院より来状、○島本愛之助、高木武、征矢野晃雄来る、○「以賽垂書」及び Stanley Hall, Adolescence を読む、○午后、学士院の委員会に山上御殿に赴く、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○雨歇む、○法貴慶次郎より来状、○「神道の本義」九州新聞及び鹿兒島新聞に出づ、○此日、姉崎正治寄送の「法華経行者日蓮」を大学

より持帰る、

廿一日、午前、濃霧既にして快晴、講義に大学に赴く、○不在
中草野甚太郎来る、○金拾円を南宗寺に送る、○「以賽亜書」
を読む、○製本屋来る、○富岡永馬より来状、○「礼記」を
読む、○午后、晴天、「礼記」を読む、○Leibniz, La
monadologieを読む、○縫子、柏原文太郎宅に赴く、○孔子
誕辰会に山上御殿に赴く、市村瓊次郎、土屋弘、東敬治等の
講演あり、○夜、九時帰宅、○岡田良平、帝国学士院、教科
書会等より来状、○「神道の本義」鹿見島新聞に出づ、○益
之進、高等師範に赴き、幻燈を観る、○富岡永馬より林檎壺
箱を送来る、

廿二日、午前、晴天、草野甚太郎来る、○修養団より来状、○「以
賽亜書」及び「家語」を読む、○湖南の老儒王闔運逝く、享
年八十六、の報あり、○帝国学士院より来状、○土屋鳳洲よ
り「晚晴楼詩鈔」及び「晚晴楼文鈔」を送来る、○中村正修
来る、○柏原文太郎宅より松茸を送来る、○午后、Leibniz,
La monadologieを読む、○小山良子、林檎壺籠を携来る、○
運動に池袋村及び長崎村方面に赴く、○夜、高橋熹齋及び其
他より来状、○書状を山口察常、麻生正藏、丸善、帰一協会、
心理学会及び清水平一郎に送る、○Leibniz, La monadologie
及び「礼記」を読む、○書状を帝国学士院に送る、
廿三日、午前、曇天、深作安文より来状、○書状を山崎龜太郎、
山口龍藏、湯原元一、富岡永馬、土屋弘、林平次郎、小山鞆
繪及び兒玉實徳に送る、○矢板大安、(栃木県視学) 安達常

正(全師範校長)来る、○「以賽亜書」を読む、○高倉智海
来る、○午后、晴天、山本卯一、岩井勇藏来る、○「以賽亜
書」を読む、○加藤玄智、山下弥三郎、九鬼周造来る、○島
本愛之助来る、○「礼記」を読む、○夜、山崎龜太郎、小宮
山源太郎来る、○Leibniz, La monadologieを読む、

廿四日、午前、晴天、橘惠勝より来状、○「以賽亜書」を読む、
○書状を高橋亨、高瀬武次郎、蓮沼門三及び岩橋遵成に送る、
○六合館より「新撰字鏡」を送来る、○書状を松信定雄、中
島半狂、法貴慶次郎、石川春陽、富田仙助及び島本愛之助に
送る、○女中ゆふを大学に遣はす、○岩波書店より「精神科
学の基本問題」を送来る、○午后、書状を小笠原実成、岩井
勇藏及び丸善洋書店に送る、○岸田蒔夫来る、○「教界春秋」
を草す、○天曇りて有風、○夜、島本愛之助より来状、○「教
界春秋」を草す、吉田雪子来る、

廿五日、午前、半晴、山崎達之輔より来状、○書状を山崎達之
輔に送る、○原稿を日清印刷に送る、○金壺円を池野成一郎
の為に野原茂六に送る、○「以賽亜書」を読む、○Leibniz,
La monadologieを読む、○午后、引続きLeibniz, La
monadologieを読む、○珍書展覧会に江東に赴く、○縫子、
雑司ヶ谷に赴き、尋いで三越に到る、○文科大学及び廣池
千九郎より来状、○夜、廣池千九郎より松茸壺籠を送来る、
○「礼記」を読む、○十時彌より松茸壺籠を送来る、○
Leibniz, Discourse on Metaphysicsを読む、

廿六日、午前、雨天、下野教育会長森森本泉より来状、○書状を

森本泉に送る、○Windelband, Einleitung in die Philosophie
 を読む、○女中ゆふを遣はしてシヤツを深作安文に送る、○
 雨歇む、○南宗寺より「天文板論語」を送来る、○午后、曇
 天、講義に大学に赴く、○外務大臣夜会の招待状来る、○「江
 戸時代文芸資料」を送来る、○有風、○夜、帰一協会に赴く、
 廿七日、午前、曇天、深作安文、山口龍藏、堀内尚同より来状、
 ○村瀬雄平、久保良英、島本愛之助、高木武、田中義能来る、
 ○大江敬香逝く、享年六十、○清水市太郎母の訃報来る、○
 午后、「以賽亜書」を読む、○甫守謹吾来る、○明治火災及
 び野原茂六等より来状、○島本愛之助より原稿を送来る、○
 夜、書状を桑原隲藏、十時弥及び廣池千九郎に送る、○有風、
 廿八日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○十時二十分上野出
 発、吉田熊次、荻野伸三郎と会談す、○午后、一時五十分宇
 都宮市着、安達常正来迎す、直に師範学校に赴く、○「神、勅
 と国体」に就いて講演をなす、聴衆約七百名、○岩田静夫(中
 学校長)、本多鎌吉(市長)、津川竹次郎(高等女学校長)、
 佐伯仲藏(郵便局長)等と会見す、○留守宅、文部省より試
 験の答案を送来る、○姉崎宅より松茸を送来る、○保険会社
 員来る、○伊藤秀吉より御礼を送来る、○日清印刷より「東
 亜の光」口絵を送来る、○日下部常吉より書状と富貴摺とを
 送来る、○文科大学より来状、
 廿九日、午前、雨天、十時二十分安達常正と共に大田原に赴く、
 ○午后、小学校に於て、「神、勅と国体」に就いて一場の講演
 をなす、聴衆約二百名、○安井清雄、(中学校長)、富田美次

郎、(郡長)、生沼米太郎(小学校長)、及び添野信等と会見す、
 ○五時過ぎ西那須野出発、○夜、十時過ぎ帰宅、○此日、留
 守宅鈴木弘来る、○武藤儀亮、林檎を携来る、○珍書同好会
 より「日次紀事」を送来る、○此日、矢板大安、東亜協会々
 員となる、

三十日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○伊藤吉之助及び土
 田誠一と大学に会談す、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷
 に送る、○午后、西岡秀之助、藤岡藏六、来る、○縫子、三
 井銀行に赴く、○金井延在職廿五年の祝賀会上野精養軒に
 赴く、水野連太郎、矢野恒太等と会談す、○不在中長谷川福
 平、「漢文大系」第二十二巻を携来る、○服部宇之吉より来状、
 ○夜、八時頃帰宅、○文科大学及び文明協会より来状、

卅一日、天長節、午前、曇天、検定試験の答案を読む、○書状
 を吉田静致に送る、○中島善太郎より歌を送来る、○午后、
 半晴、岩井勇藏来る、○引続き、答案を読む、○齋藤勇来弔
 す、○書状を清水市太郎、文明協会、大英百科全書会社に送
 る、○「以賽亜書」を読む、○夜、東亜協会評議員会を開き、
 深作安文の為に送別の宴を催ふす、来会者二十余名、○不在
 中蓮沼門三及び坂本勲来る、○高島平三郎及び其他より来状、
 ○此日、黄興逝く、享年四十三、

十一月

一日、午前、雨天、史学会より書状と速記とを送来る、○学習
 院に赴き、尋いで女学部に至る、○御殿場東山湖耕地整理組
 合より来状、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○帝国教育

会及び峯間信吉より来状、○明治火災の西岡秀之助来る、乃ち改めて火災保険をなす、保・險・金・総・額・金・壹・萬・七・千・八・百・円、保・險・料・金・五・拾・壹・円・也、○阿部維巖、硯箱を携来る、○夜、「以賽亜書」を読む、○「礼記」を読む、

二日、午前、晴天、文部省に赴き、八時より修身科検定本試験の口述試験を行ふ、○夜、七時頃試験了る、○八時半頃帰宅、○不在中小西重直来る、○草野甚太郎、芹澤喜一郎、多木悦造、三上義夫、清水市太郎、森本泉、同文館及び文科大学より来状、○「東亜の光」(十一の十一)成る、○日清印刷より「東亜の光」拾部を送来る、○「天壤無窮の神勅に就いて」東亜の光に出づ、○此日、大野太衛より書状と原稿とを送来る、○田辺春枝より清子に来状、

三日、午前、晴天、宮中に於て立太子礼を行はせらる、○立太子礼奉賀式に大学に参す、○渡辺政吉、高木武来る、○午后、修養団本部より来状、○午后、書状を山口龍藏及び芹澤喜一郎に送る、○「以賽亜書」を読む、○「原始神道」世界に出づ、○夜、雑誌類を読む、

四日、午前、晴天、島本愛之助及び在米国押田三郎より来状、○講義に大学に赴く、○鈴木弘、姉崎袖子及び御殿場の農邊某来る、○伊藤秀吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文部省の使者来る、乃ち之に試験答案を付与す、○不在中佐々木省三来る、○午后、柏原文太郎妻、吉田熊次等来る、○宣光五十日祭に相当す、神官来りて式を行ふ、○「中学漢文」五百部の奥附を光風館に付与す、○文明協会より「現代社会

心理」を送来る、○「日本経済叢書」を送来る、○浦谷熊吉、姉崎正治来る、○縫子、吉田熊次等と雜川ヶ谷に赴く、○「以賽亜書」を読む、○書状を山崎亀太郎に送る、○夜、書状を文科大学、草野甚太郎及び榎本勝多に送る、

五日、午前、晴天、独逸より Fünftes Jahrbuch der Schopenhauer-Gesellschaft を送来る、○「神勅と国体」後援に出づ、○四宮兼之、島本愛之助来る、○「以賽亜書」を読む、○午后、書状を久保良英及び山口龍藏に送る、○縫子、押田翼宅に赴き、尋いで伊澤修二宅に到る、○鈴木弘来る、○ Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie 及び Leibniz, Discourse on Metaphysics を読む、○島本愛之助より来状、○「日本国粹全書」(第十八輯)を送来る、○夜、帝国学士院より来状、○夜、書状を帝国学士院に送る、○研究六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○三上参次を史料編纂に訪ふ、○伊藤秀吉より筆記を送来る、○荻村錦太の計報来る、○丹波敬三夫妻より招待状来る、○国華社より案内状来る、○午后、征矢野晃雄、久保良英来る、○府税市税金一六、四八〇也を郵便局に納む、○原稿を伊藤秀吉に送る、○西岡秀之助来る、○「林外文稿」を征矢野晃雄に托して廣瀬陽太郎に返さしむ、○甲状を荻村錦太に送る、○「以賽亜書」を読む、○ Carnegie Endowment for International Peace (Year Book 1916) を送来る、○縫子、深作安文宅に赴き、尋いで間端吾及び井上成美宅を訪ふて帰る、○夜、遠山操、馬淵冷佑来る、○書状を帝国教育会に送る、○書状を

製本屋に送る、

七日、午前、晴天、深作安文、弘道館記榻本を携来る、○岩井勇藏及び製本屋来る、○書状を塩谷温に送る、○Leibniz, Discourse on Metaphysicsを読む、○富岡永馬より来状、○午后、引続きLeibniz, Discourse on Metaphysicsを読む、○清子、高子と共に三越に赴く、○書状を森良三郎に送る、○「日本大藏経」を送来る、○夜、引続きLeibnizを読む、○座親玄山及び山本右太郎より来状、○此日、天皇陛下九州へ行幸、

八日、午前、晴天、学習院に赴く、○臼杵東嶼、松宮春一郎、加藤政司郎、杉浦初太郎、塩谷温より来状、○堀維孝と学習院に会見す、○書状を山内計作、山崎達之輔、座親玄山及び富岡永馬に送る、○Leibniz, Discourse on Metaphysicsを読む、○午后、Leibniz, Discourse on Metaphysicsを読了す、○金港堂より来状、○「師範修身」二百部の奥附を晚成処に付与す、○書状を金港堂に送る、○島本愛之助より小包を送来る、○馬淵冷佑より来状、○運動に音羽方面に出で「俳聖芭蕉翁」と「儒学大観」とを購入して帰る、○夜、国体研究会案内状九通を発送す、○Correspondance de Leibniz et D'Arnauldを読む、○Höfding, Geschichte der neueren Philosophieを読む、

九日、午前、雨天、大倉喜八郎及び湯原元一より来状、○齋木織三郎来る、有故不遇、○所得税金四〇、三五〇也、府税市税金七、四二也、合計金四七、七七也を郵便局に納む、○吉田

雪子来る、○Höfding, Geschichte der neueren Philosophieを読む、○国体研究会案内状を上原勇作に送る、○Kuno Fischer, Geschichte der neueren Philosophieを読む、○夜、書状を岸田蒔夫に送る、○引続きKuno Fischerを読む、○Höfding, Geschichte der neueren Philosophieを読む、

十日、午前、曇天、小松静より来状、○佐々木省三、磯部幸太郎来る、有故不遇、○高木武、島本愛之助、武藤儀亮来る、○Höfding, Geschichte der neueren Philosophieを読む、○午后、勉強、○夜、雨天、国体研究会に山上御殿に赴く、来会者約二十五六名、上杉慎吉の講演あり、○山口龍藏より来状、十一日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○酒饌料を拝受す、○哲学会より来状、○午后、下谷の練成小学校に赴き、「神勅と国体」とに就いて一場の講演をなす、聴衆約二百名、草野甚太郎、濱田國松等と会見す、○エミール、エツク教授在職二十五年記念祝賀会上野精養軒に赴く、仏国大使レニヨ及び其仏国人と会見す、○夜、十時頃帰宅、○文部省より来状、○此日、宮崎光男、上野精養軒に来訪す、○渡邊久太郎より来状、

十二日、午前、晴天、羽倉信一、柳井ハルヲ及び辻清吉商店より来状、○伊藤吉之助来る、○勉強、○豊国屋に赴き昼食す、片山国嘉と会談す、○午后、ライブニッツ二百年記念講演会を大学に開く、即ち哲学会秋季大会なり、聴衆約二百五十名、○夜、山上御殿に会食す、○九時頃帰宅、○藤井健治郎及び山崎龜太郎より来状、○此日、宮崎光男、大学に来訪す、○

「靈魂信仰と祖先崇拜」を送来る、

十三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○大学より「大日本史料」(四の十五)を送来る、○小山鞆繪より来状、○大掃除、○アラビア王国成立の報あり、○独軍死傷総数三百七十五萬五千六百九十三名、中戦死数八十五萬五千八百七十七名なりと云ふ、○「以賽亜書」を読む、○午后、下村春之助、高橋友吉、高木武、藤岡藏六、西岡秀之助、長谷川福平来る、○「以賽亜書」を読む、○「国体神道と立太子式」徳島日々新聞に出づ、○山田新一郎、東亜協会々員となる、○巢鴨長屋総計八棟十二戸、此保険金三四二〇也、保険料金一八、八五也、故に保険金総額金一八、六二〇也、保険料金五八、七四也、○夜、書状を高木武に送る、○「二程全書」を読む、○此日、深作安文出發、

十四日、午前、晴天、「以賽亜書」を読む、○引続き大掃除、○動物園に遊ぶ、○午后、曇天、豊国屋に昼餐す、○文展を観る、磯江潤、九鬼周造等と遭逢す、○巢鴨池袋方面に赴く、○宮内省より観菊御宴の招待状来る、○富岡永馬及び文科大
学より来状、○風生ず、○「礼記」を読む、○夜、「礼記」及び「二程全書」を読む、○東亜協会秋季講演大会の案内状を尾原亮太郎、三枝光太郎、若守義孝、久保良英、征矢野晃雄に送る、○書状を富岡永馬に送る、○帝国学士院及び大野太衛より来状、

十五日、午前、曇天、丸井圭次郎より来状、○学習院に赴く、○深作安文宅より来状、○中島半狂より書状と原稿とを送来

る、○「以賽亜書」を読む、○午后、雨天、書状を山崎龜太郎に送る、○東亜協会案内状を阿部莊二、麻生正藏、藤岡藏六等に送る、○原稿を整理す、○書状を峯間信吉及び大倉喜八郎宅に送る、○夜、論文を草す、○書状を富山房に送る、十六日、午前、曇天、東洋大学より来状、○書状を東洋大学に送る、○「大正詩文」を送来る、○パーシブル、ロウエル去る十二日を以て逝く、享年五十八との報あり、○去る十五日草場礎助(佩川)は従四位を、青柳勝次は従四位を、佐田白茅と緒方春朔は正五位を、村上潜藏(仏山)も正五位を贈らるとの報あり、○勉強、○女中ゆふを東海銀行に遣はす、○婦一協会及び大阪毎日新聞社より来状、○午后、講義に大学に赴く、○「以賽亜書」を読む、○小林文七より印刷物を送来る、○夜、齋藤精輔より来状、○論文を草す、

十七日、午前、曇天、二松堂より「新作詩自在」を送来る、○小林文七より来状、○「漢詩の将来」新作詩自在に出づ、○「以賽亜書」を読む、○大壁某、高木武、島本愛之助、仲野秀治、征矢野晃雄、武藤儀亮来る、○山川智應より来状、○富山房より「朝川通史」を送来る、○午后、雨天、教科書会に文部省に到る、○「以賽亜書」を読む、○山川智應より「日蓮聖人と耶蘇」二部と「本化聖典大辞林」とを送来る、○夜、風雨、論文を草す、

十八日、午前、雨天、飯沼松枝より来状、○講義に大学に赴く、○論文を草す、○雨歇む、○書状を倫理学研究室に送る、○午后、引続き論文を草す、○縫子、高子を拉して文展に赴く、

○友枝高彦、岩井勇藏来る、○夜、曇天、論文を草す、十九日、午前、曇天、岩井勇藏来る、乃ち之に原稿を付与す、○勉強、○石井鹿之助来る、○石井鹿之助東亜協会々員となる、○羽倉信一より「大嘗会儀式具釈」を受く、○午后、豊国屋に昼食し、櫻井錠二と会談す、○東亜協会秋季講演大会を大学に開く、聴衆約五百名、講演者は会長の外箕作元八、瀧精一及び穂積重遠なり、○夜、東亜協会懇親会を山上御殿に開く来会者約二十名、○浩々居及び山口龍藏より来状、○不在中加藤政司郎来る、○製本屋亦来る、○此日、森良三郎来る、乃ち之に巢鴨の租税金三〇、五一也を付与す、○波蘭の小説家シエンキウイツチ逝く(一八四六年生る)の報あり、二十日、午前、晴天、穂積陳重、田中元生及び竹内康二より来状、○講義に大学に赴く、○仏国の画エラフハエル、コラン逝く、享年六十七の報あり、○午后、岩井勇藏、川瀬光順及び岸田蒔夫等来る、○「以賽亜書」を読む、○川島平五郎より来状、○書状を加藤政司郎に送る、○夜、書状を山崎亀太郎及び山口龍藏に送る、○帝国学士院より来状、○論文を草す、廿一日、午前、陰晴不定、「以賽亜書」を読む、○明治大学、羽倉信一、文部省及びManufacturers Life Insurance Companyより来状、○姉崎老母病気稍々重しとの報あり、縫子直に見舞に赴く、○川島平五郎より「足利学校校契奠講演筆記」(第五卷)を送る、○「孔子の人格及び感化」講演筆記に出づ、○書状を山口龍藏に送る、○歯科医門石に赴く、○「礼記」を読む、○午后、晴天、「礼記」を読む、○吉田静致妻、柿

を携来る、○論文を草す、○大島正徳来る、○宮本和吉より原稿と書状とを送る、○夜、婦一協会に赴く、床次竹次郎、秋月左都夫、加藤熊二郎等来る、○不在中練成小学より御礼を送る、○此日、女子高等師範より印刷物を送る、

廿二日、午前、晴天、明治火災より来状、○学習院女学部に赴く、○「礼記」及び「以賽亜書」を読む、○午后、「礼記」及び「以賽亜書」を読む、○葉山照子、菓子壺箱を携来る、○歯科医門石に赴く、○宮内省より招待状来る、○研究、○夜、同文館の速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、○大倉喜八郎より来状、○「礼記」を読む、○山崎亀太郎より来状、廿三日、新嘗祭、午前、晴天、田中元生、金井延より来状、○村上俊江、橋本文壽来る、○縫子、濱本信一宅に赴く、○「教界春秋」を草して之を日清印刷に送る、○「以賽亜書」を読む、○The Encyclopedia Britannica, Eleventh edition, 29 Vols. 来る、○午后、「礼記」を読む、○高橋亨、朱子の書(敬斎箴)を携来る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、○吉田熊次夫妻来る、○澳国皇帝フランツ、ヨゼフ崩御の報あり、享年八十六、在位六十八年、カール、フランツ、ヨゼフ即位、正に二十九歳、廿四日、午前、晴天、書状を小西重直及び山川智應に送る、○島本愛之助、征矢野晃雄并に製本屋来る、○歯科医門石に赴く、○「耶利米亜記」を読む、○午后、「耶利米亜記」を読む、○教科書会に文部省に赴く、○山崎亀太郎より来状、○書状を高木武及び山崎亀太郎に送る、○夜、速記者来る、乃ち談

話を速記せしむ、○勉強、○此日、女中ゆふを大学に遣はす、
 廿五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「耶利米亜記」を
 読む、○縫子、府立女子師範附属小学に赴き、尋いで姉崎宅
 に到る、○史料編纂より来状、○書状を史料編纂に送る、○
 水道使用料総計金一二、○七也を郵便局に納む、○押田よの
 子来る、○預金通帳を郵便局に出す、○午后、速記を訂正す、
 ○齒科医門石に赴く、○大倉書店より来状、○桑原隲藏の論
 文を読む、○文明協会より「日本人の海外発展」を、国書刊
 行会より「江戸時代文芸資料」(第五)を送来る、○夜、雨天、
 大蔵会より来状、○速記を訂正す、○「二程全書」を読む、
 廿六日、午前、半晴、山口龍藏、中村栄太郎等より来状、○「耶
 利米亜記」を読む、○高木武、中込本治郎来る、○齒科医門
 石に赴く、○午后、曇天、日清印刷より「東亜の光」口絵を
 送来る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷に、書状を中村
 栄太郎に送る、○雨、○「耶利米亜記」を読む、○速記の準
 備をなす、○夜、速記者来る、乃ち談話を速記せしむ、○勉
 強、○此日、河瀬秀治、小西重直、杉浦初太郎及び修養団よ
 り来状、
 廿七日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○不在中八束清貫来
 る、○立太子礼の饗宴に赴く、和田垣謙三、横山又次郎、真
 野文二、箕作八等と会谈す、○午后、岩井勇藏来る、○大倉
 喜八郎の招待に帝国劇場に赴く、大倉喜七郎、股野琢、市村
 瓚次郎、宮岡恒次郎、伊東忠太、永地秀太、正木直彦、高楠
 順次郎、入澤達吉等と会谈す、○夜、十時頃帰宅、○此日、

「女子修身」一千九百六十部の奥附を金港堂に付与す、○練
 成小学より速記を送来る、

廿八日、午前、曇天、齒科医門石に赴く、○高木武来る、○村
 澤悦雄より来状、○午后、安井小太郎来る、○速記を訂正す、
 ○荒浪市平より速記を送来る、○夜、書状を飯沼松枝及び福
 島県修養団支部に送る、○速記を訂正す、○書状を山口龍藏
 に送る、○山口龍藏より薩摩芋二俵を送来る、

廿九日、午前、雨天、学習院に赴く、○書状を山崎亀太郎に送
 る、○郵便局より来状、○書状を廓清会本部に送る、○午后、
 徳川頼倫侯より来状、○勉強、○興学会より来状、○齒科医
 門石に赴く、工藤一記と会見す、○柏原文太郎妻、贈物を携
 来る、○不在中製本屋来る、○Fullerton, Introduction to
 Philosophy を読む、○夜、引続き Fullerton を読む、○勉強、
 ○荒浪市平宅より速記を送来る、○此日、薄井小蓮逝く、享
 年八十八、

三十日、午前、雨天、大日本教育書院及び多喜乃實臣より来状、
 ○勉強、○珍書同好会より「唯心房集」及び「日次紀事」を
 送来る、○午后、曇天、講義に大学に赴く、○山中正雄より
 来状、○書状を広文堂に送る、○夜、速記者来る、乃ち談話
 を速記せしむ、○速記を訂正す、

十二月

一日、午前、晴天、荒浪市平宅より速記を送来る、○松信定雄
 及び其他より来状、○八束清貫、森良三郎、島本愛之助来る、
 ○速記を訂正す、○午后、切抜通信より来状、○速記を訂正

- す、○歯科医門石に赴く、途上蟹江操子及び其他に逢ふ、○日清印刷より「東亜の光」(十一の十二) 拾部を送来る、○縫子、中島徳藏、樋口秀雄、得能文及び笹川種郎諸氏の宅に赴く、○「天壤無窮の神勅に就いて」東亜の光に出づ、○夜、井上右近来る、○速記を訂正す、○書状を山崎亀太郎に送る、
- 二日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○明治火災及び東洋大
学より来状、○不在中淺野某来る、○途上高木武と逢ふ、○
祝の鯉節を大倉喜八郎及び徳川頼倫に送る、○松永武雄逝く
との報あり、乃ち香奠式円を文科の事務に托す、○飯沼松枝
より来状、○書状を山口龍藏に送る、○速記を訂正す、○午
后、速記を訂正す、○書状を東洋大学に送る、○浦谷ふみ及
び同文館員高橋友治来る、○原稿の一部を高橋友治に付与す、
○高木武来る、○夜、學術講和会に大学に赴く、藤井健次郎
の講演あり、○宮本和吉より原稿を、荒浪市平宅より速記を
送来る、○此日、在青島上田萬年、立花政樹、石田幹之助、
黒木安雄より来状、
- 三日、午前、雨天、土田誠一、川島次郎来る、○「陽明哲学」
一一部の奥附を富山房に付与す、○速記を訂正す、○目黒甚
七来る、○午后、曇天、速記を訂正す、○伊藤錦子、御礼を
携来る、○高橋友治来る、乃ち之に原稿を付与す、○夜、速
記を訂正す、○原稿を岸田蒔夫に送る、○勉強、
- 四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○歯科医門石に赴く、
○午后、征矢野晃雄、岩井勇藏来る、○徳川頼倫嗣子頼貞の
結婚披露に築地精養軒に赴く、松平直亮、横田国臣、花房義
質等と会見す、○「日本国粹全書」(第四輯) 及び「日本大
藏経」を送来る、○「大日本仏教全書」を送来る、○書状を
山崎亀太郎及び松永義雄に送る、○夜、古橋今四郎より来状、
○速記を訂正す、
- 五日、午前、晴天、宮本和吉より来状、○速記を訂正す、○書
状を広文堂に、原稿を岸田蒔夫に送る、○土田誠一来る、○
午后、速記を訂正す、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送
来る、○歯科医門石に赴く、○不在中武藤儀亮来る、○「大
正の青年と帝国の前途」を読む、○夜、原稿を岸田蒔夫に送
る、○帝国学士院及び福島県修養団支部より来状、○書状を
大日本教育書院に送る、○「東亜の光」口絵解題を日清印刷
に、書状を帝国学士院に送る、○「礼記」及び「孔子家語」
を読む、
- 六日、午前、晴天、学習院に赴く、○電報を山崎亀太郎に送る、
○「耶利米聖記」を読む、○書状を山口龍藏に送る、○中島
半狂及び婦一協会より来状、○田邊春枝より縫子に來状、○
勇雄、昇共に風邪の気味あり、○午后、「耶利米聖記」を読む、
○書状を婦一協会に送る、○速記を訂正す、○「大正の青年
と帝国の前途」を購入す、○医学士薬科某来診す、○Kuno
Fischer, Geschichte der neueren Philosophieを読む、○夜、
引続き Kuno Fischer を読む、○帝国学士院より来状、○
Teberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読
む、○昇病気の為苦痛多し、
- 七日、午前、曇天、書状を伊藤秀吉及び山口龍藏に送る、○勉

強、○松永義雄より来状、○清子、昇を携へて大学病院に赴き、弘田長をして之を診察せしむ、○午后、講義に大学に赴く、○紀平正美より「自我論」を送来る、○小林正策、杉浦鋼太郎、日置健太郎、及び帝国教育会等より来状、○夜、山口鉄市来る、乃ち談話を速記せしむ、○書状を中島徳藏及び山崎亀太郎に送る、○Kuno Fischer, Geschichte der neueren Philosophieを読む、○「礼記」を読む、

八日、午前、雨天、日置健太郎より論文を送来る、○東亜協会より小包来る、○大日本雄弁会より贈物を送来る、○武藤儀亮、宮本和吉、島本愛之助、土田誠一来る、○伊藤秀吉来る、乃ち談話を筆記せしむ、○磯江潤より鯉節を送来る、○素行会より「武家事紀」を送来る、○午后、歯科医門石に赴く、○中島半狂より電報来る、○反電と原稿とを中島半狂に送る、○金港堂より印税を送来る、○書状を武藤儀亮に送る、○夜、納谷直次郎来る、乃ち談話を速記せしむ、○此日、「大正の青年と帝国の前途」を読む、

九日、午前、曇天、富田貞松より故春山一周忌の賜物を送来る、○講義に大学に赴く、○清子、昇を抱いて大学病院に赴く、○速記を訂正す、○有風、○午后、晴天、速記を訂正す、○「日本経済叢書」(第三十卷)を送来る、○夜、旧霜月十五夜、竹内康二より来状、○速記を訂正す、○此日、夏目漱石逝く、享年五十、○此頃、大山大将重患、

十日、午前、曇天、速記を訂正す、○武藤儀亮、坂本廣道、竹内貞三、佐々三郎来る、○書状を竹内貞三に送る、○山口龍

藏より来状、○原稿を速達にて宮本和吉に送る、○午后、蓮沼門三より来状、○書状を丸善に送る、○雨一変して半雪となる、○「教界春秋」を草す、○内大臣公爵大山巖逝く、享年七十五、○藁科松柏来診す、○博品館に赴く、○夜、勉強、○「史記商君列伝」を読む、

十一日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○阿部維巖、荻村龍城、及び金港堂より来状、○夏目漱石の訃報来る、○雨歇む、○午后、曇天、岩井勇藏、坂本廣道、日置健太郎、高木武、山本卯一、大壁早治来る、○日本弘道会及び其他より来状、○夜、「教界春秋」を草す、○山崎亀太郎、松永義雄より来状、○納谷直次郎より原稿を送来る、○鷺尾順敬より「鎌倉武士と禅」を送来る、○「教界春秋」を日清印刷に送る、

十二日、午前、晴天、夏目漱石の葬式に青山斎場に赴く、坪内雄藏、徳富猪一郎、松浦一、水野鍊太郎、櫻井房記、加藤恒忠等と会見す、○速記を訂正す、○書状を高木武及び弘道会に送る、○文部省より「欧州戦争写真帖」を送来る、○午后、速記を訂正す、○小林照朗より書状と「欧米の社会と日本の社会」とを送来る、○丸善より Rogers, A brief Introduction to modern Philosophy を送来る、○谷地図書館より来状、○中島徳藏の使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○鈴木弘来る、○夜、帝国学士院に赴く、○文科大学、島本愛之助及び夏目純一より来状、○東亜協会より小包来る、○服部宇之吉、東亜協会評議員となる、

十三日、午前、晴天、大野太衛及び其他より来状、○学習院に

赴き、尋いで女学部に到る、○大野太衛より巻煙草人を送來る、○午后、女中ゆふを東海銀行に遣はす、○縫子、買物に外出す、○勇雄、快癒、昇も亦殆ど全快、○独逸講和提議の噂あり、○吉田熊次來る、○Ueberweg. Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○夜、勉強、○書状を長谷川文明に送る、○此日、「国朝先正事略」を求む、○清子、大学病院に赴く、

十四日、午前、晴天、勉強、○Ueberweg. Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○鉄道院より日本地図を送來る、○伊藤秀吉より筆記を送來る、○櫛引成太來る、乃ち之に原稿を付与す、○「師範修身」三百部の奥附を晩成処に付与す、○午后、講義に大学に赴く、○岩井勇藏來る、○土屋為雄より來状、○小林義則より書翰箋を、上原才一郎より風呂敷を送來る、○向陵社より「猶太神話」を送來る、○夜、筆記を訂正して之を裁縫教育会に送る、○国体研究会案内状拾通を發送す、○日本弘道会及び西正寺世話人より來状、

十五日、午前、晴天、葉山照子及び鳩山一郎より來状、○坂本廣造、島本愛之助、出隆、田中義能、竹内貞三來訪す、○日置健太郎來る、乃ち之に原稿を返す、○午后、徳川頼倫より鯉節と鶴子餅とを送來る、○日本学会案内状拾五通を發送す、○京都の史学研究会より來状、○吉田雪子來る、○夜、帰一協会に中央亭に赴き、「神社神道に就きて」一場の講演をなす、來会者約三十名、会食後坂谷芳郎の談話ありなり、○帝国学

士院より來状、

十六日、午前、晴天、浦谷熊吉及び杉浦初太郎より來状、○講義に大学に赴く、○久保良英より味醂を送來る、○「以士喇書」を読む、○午后、引続き、「以士喇書」を読む、○文部省より書状と書類とを送來る、○齋藤愛子、菓子壺箱を携來る、○丁酉倫理会に赴く、○夜、国体研究会に山上御殿に赴く、○谷地圖書館より來状、○この頃、昇亦全快、

十七日、午前、晴天、大山元帥国葬、○仏書研究会より書状と「仏教之美術及歴史」を送來る、○阿部東作、大野太衛來る、○金港堂より漬物壺樽を、日本經濟叢書刊会より墨二箇を、○反物を竹本長吉に、味醂二罎を一宮弘人に送る、○「以士喇書」を讀りて「尼希米亜記」を読む、○午后、日本弘道会に赴き、「道德上より觀たる神社問題」に就いて講演す、○徳川達孝、全頼倫、南勝太郎、廣瀬孝子、小林正策妻等と会见す、○日本弘道会より來状、○菓子を甘木富田家及び水道町の押田老母へ、反物其他を御殿場番人へ送る、○「国体と神勅との話」日本之小学教師に出づ、○夜、勉強、

十八日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○二宮熊次郎の計報來る、○女中ゆふを学習院に遣はす、○午后、岩井勇藏、広文堂店員、藤岡藏六來る、○志水代次郎、菓子壺箱を携來る、○夜、日本学会に山上御殿に赴き、「旧約全書を読んで感あり」を演述す、來会者約二十余名、○日本弘道会及び文科大学より來状、○Hugo Münsterberg 逝くの報あり、享年五十三、○此日、鷺尾順敬より來状、

十九日、午前、曇天、武谷水城、三枝光太郎より来状、○「尼希米亜記」を読む、○吉田豊吉、莫物志籠を携来る、○書状を二宮乾一、鷲尾順敬及び麻生正藏に送る、○香奠金式円入の書状を西正寺に送る、○「原始神道に就いて」神社協会雑誌に出づ、○縫子、紀平大島二氏宅へ各々贈物を携へて赴き、帰途姉崎老母を訪ふ、○午后、黒田侯爵邸より鴨七羽を、文明協会より砂糖を送来る、○文科大学より使者来る、乃ち之に橘惠勝の論文を付与す、○床屋に赴き、尋いて白山方面に散歩す、○夜、伊藤吉之助来る、○谷地図書館より「谷地町志」を送来る、○書状を吉田熊次及び日本弘道会に送る、○丸善より洋酒三罇を送来る、○書状を河内堂に送る、

二十日、午前、晴天、「尼希米亜記」を読む、○縫子雑司ヶ谷に赴く、○書状を黒田侯爵邸及び山口龍藏に送る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○田中館愛橋を近藤病室に見舞ふ、○不在中深作安文妻、海苔を携来る、○清子、田中次郎宅に赴き、尋いて水道町押田宅に到る、○夜、上田萬年の支那より帰来るを東京駅に迎ふ、○同文館より文房具を送来る、○学習院より来状、○不在中製本屋来る、

廿一日、午前、半晴、勉強、○製本屋来る、○釈義堂来る、○午后、講義に大学に赴く、○光風館より書状と印税とを送来る、○「尼希米亜記」を読む、○帝国学士院及び帝国教育会より来状、○菓子を博多川端、中洲及び岡山の田邊禎夫に送る、○「二程全書」を読む、○夜、書状を高木武及び飯田謙二に送る、○書斎の整理をなす、○書状を飯田謙二に送る、

廿二日、午前、晴天、「尼希米亜記」を読了す、○文部省より「口語法」を送来る、○やまと新聞社より小包を送来る、○島本愛之助、征矢野晃雄来る、○故宣光百日祭を行ふ、吉田夫妻、柏原文太郎来る、○伊澤修二より雉子を送来る、○森良三郎より蜜柑箱を、送来る、○午后、井上波野来る、○縫子、雪子及び柏原文太郎妻と共に雑司ヶ谷に赴く、○齋藤虎次郎、山口龍藏より来状、○帰一協会より「社会道德上の共同責任」を送来る、○晩成処より印税と真綿とを送来る、○姉崎正治来る、○夜、哲学会に山上御殿に赴く、○前川文栄閣より数の子粕漬を送来る、○マニユファクチュラス生命保険及び富山房より来状、

廿三日、午前、晴天、富田貞松、大塚先儒墓所保存会より来状、○土田誠一、黒澤逸郎来る、○女中ゆふを大学に遣はす、○同文館より「教育冬期講習録」を送来る、○「国・民・道・徳」上の重要問題」教育冬季講習録に出づ、○吉田静致よりからし漬二瓶を送来る、○「以士帖書」を読む、○「人格と修養」百五十部の奥附を広文堂に付与す、○午后、弘道館より菓子を送来る、○女中ゆふを三井銀行に遣はす、○吉田雪子、贈物を携来る、○砂利屋、砂利を運来る、○書斎の整理をなす、○坂本嘉治馬より来状、○夜、新聞雑誌を読む、○島本愛之助より来状、○此日、縫子、終日臥褥、

廿四日、午前、晴天、田中孝一郎より来状、○阿部東作来る、○大塚先儒墓所祭典式場に赴く、芳川顯正、濱尾新、山川健次郎、岡田良平、徳川達孝、徳川頼倫、奥田義人、杉浦重剛、

三宅秀、穂積陳重等と会見す、○中島慎一より菓子壱箱を送る、○「以士帖書」を読む、○午后、「以士帖書」を読了す、○多賀羅亭より菓子を送る、○文部省より「列強の少年義勇団」を送る、○中島慎一来る、○女中ゆふを遣はして反物を弘田長に、菓子と診察料とを藁科松柏に送る、○夜、上田学長兼文科大学懇親会に山上御殿に赴く、○不在中蓮沼門三来る、○篠田六郎、山内興隆（西正寺）、及び独逸協会学校より来状、

廿五日、午前、晴天、望月信亨より仏教大辞典第三巻を送る、○「修養の秘訣」青年雑誌に出づ、○日下部常吉より来状、○縫子、益之進と東京駅より出発、長岡に向ふ、○書状を峰間信吉に送る、○一宮弘人より海老壱箱を送る、○高木武、菓子壱箱を送る、○文学士大西友一、東亜協会々員となる、○岩井勇藏来る、○石井鹿之助、布施辰治、田村一郎、藤浪由之、東亜協会々員となる、○午后、帝国教育会講習会に赴き、国民道德を講ず、聴衆約四百五十名、○伊藤錦子、砂糖壱箱、雑誌五部及び御礼を携来る、○六盟館よりハンケチ二打を、目黒書店より砂糖を、日本弘道会より御礼とハンケチ壱打を、博文館よりポケット日記を送る、○珍書同好会より「日次紀事」を送る、○丸善より Henke, The Philosophy of Wang Yang-ming を送る、○夜、速記者森上某来る、乃ち談話を速記せしむ、○井上健兒より塩鯛を送る、○文部省及び在米国深作安文より来状、○此日、大倉喜八郎より掛物を送る、押田よの子砂糖を携来る、

廿六日、午前、晴天、文部省及び Harper H. Cates より来状、○峯間信吉より原稿を送る、○岩橋遵成、蜜柑壱箱を携来る、○今福忍より菓子壱箱を送る、○書状を島本愛之助、高木武、岩井勇藏、伊藤吉之助、武藤儀亮に送る、○午后、講習会に帝国教育会に赴く、○富山房より風呂敷を、齋藤基次郎より鴨二羽を、林平次郎より風呂敷二つを、大倉書店より商品券を送る、○多木悦造より来状、○文科大学より文部省職員録と書状とを送る、○夜、島本愛之助より葡萄酒半打と書状とを送る、○書状を田中孝一郎に送る、○「約百記」を読む、

廿七日、午前、晴天、「丁酉倫理」を読む、○尾上八郎より鶏卵壱箱を送る、○女中ゆふを文部省に遣はす、○勉強、○志水代次郎、「小語」を携来る、○広文堂より風呂敷を送る、○女中ゆふを遣はし、三宅鑛一に商品券を、菓子を野尻某に、柏原文太郎に鴨二羽を送る、○富田貞松より来状、○午后、講習会に帝国教育会に赴く、○島本愛之助、高木武、伊藤吉之助、武藤儀亮、土田誠一、岩井勇藏を招いて小集を神田多賀羅亭に催ふす、○夜、九時半頃帰宅、○縫子及び益之進より来状、○多木悦造より肴壱箱を、富田順吉より小包を、吉田久兵衛より菓子を、片岡某よりハンケチ壱打を送る、○不在中「書画大観」を携来る者あり、○武藤儀亮より来状、○得能文、御船繁来る、○「東亜の光」(十二の一)成る、○日清印刷より「東亜の光」拾部を送る、○「欧州大戦と其結果」東亜の光に出づ、○「日本経済叢書」(第三十一卷)

を送来る、

廿八日、午前、晴天、山口龍藏より来状、○在米国芳賀矢一より来状、○田中孝一郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○豊田臻、漬物壺樽を携来る、○御船繫、岩井勇藏来る、○シヤツ壺枚を島本愛之助に、商品券を岩井勇藏に贈る、○砂糖壺箱を吉田熊次宅に、菓子壺箱、肩掛及びリツポンを姉崎宅に送る、○午后、有風、講習会に帝国教育会に赴く、○帝国教育会講習会以此日終了す、○女学部書記中澤重吉、御礼を携来る、○武藤儀亮、山口察常より来状、○井上成美より真綿を、博文館よりビール半打を、文成社よりビール壺打券を、山口察常よりビール壺打を、飯田義一より野菜壺俵を送来る、○東亜協会より「東亜協会名簿」拾冊を送来る、○宮内省より新年宴会の招待状来る、○夜、書状を大和館に送る、○「約百紀」を読む、○「東亜の光」を読む、○書状を高木武に送る、○夜半、田邊唯司より電報来る、

廿九日、午前、晴天、小林文七より来状、○宮島善次郎来る、乃ち之に原稿を付与す、○女中ゆふを三井銀行に遣はす、○笹川貞子より鶏卵壺箱を、姉崎宅より漬物壺樽と野菜とを送来る、○正勝、東京駅に赴き、田邊唯司夫妻を迎ふ、○有風、○「書画大観」及び Rogers, A brief Introduction to modern Philosophy を購入す、○来状二あり、○飯田義一より来状、○午后、一時頃、田邊唯司夫妻及び柏原文太郎妻来る、○岸田時夫、御礼を携来る、○マニユファクチュラス生命保険より吉川純一来る、乃ち之に金四〇四円を支払ふ、○国書刊

行会より「民間風俗年中行事」を送来る、○夜、教育大講演会に東京工科学校に赴き「国民教育の革新」に就いて一場の講演をなす、○届書を宮内省式部職に送る、○贈物を馬淵冷佑及び篠田録策に送る、○「約百紀」を読む、○此日、製本屋来る、

三十日、午前、晴天、三省堂よりビール壺打券を送来る、○田邊唯司、桂弁三及び柏原文太郎宅に赴く、○ビール壺打券を桂弁三に送る、○「約百紀」を読む、○書状を速達にて藤岡藏六に送る、○修養団本部より鯉節券を送来る、○「明治以来道徳思想の変遷に就いて」教育研究に出づ、○有風、○午后、田中義能、砂糖壺樽を携来る、○吉田修夫より鴨壺羽を送来る、○藤岡藏六来る、○熊本謙二郎、宮坂喆宗及び Emilie Heck より来状、○野田義夫より奈良漬を送来る、○夜、蠣瀬彦藏よりシヤツを送来る、○野田義夫より来状、○富田政喜より縫子に來状、○藤岡藏六来る、○書状を縫子に長岡に送る、○年賀状を認む、○此日、柏原文太郎より洋酒二罍を送来る、

○卅一日、午前、晴天、岡部為吉より来状、○蓮沼門三、雉子二羽と菓子とを携来る、○廣池千九郎、「日本憲法淵源論」とはさみとを携来る、○雉子二羽を三浦謹之助に送る、○在英国補永茂助より Daily Sketch を送来る、○伊沢修二より盆栽を送来る、○帝国教育会より書状と御礼とを送来る、○午后、蜜柑箱と書状とを浩々居に送る、○菓子を井上成美と田中次郎に送る、○森良三郎、岩井勇藏来る、○運動に巢鴨

方面に赴き尋いで博品館に到る、○大倉書店より「仏教大辞典」と御札とを送来る、○縫子より来状、○中島半狂及び吉住元策より来状、○書状を縫子及び中島半狂に送る、○年始状四通来る、

茲に歳末に際し、過去一年間の事を回想するに、購入書籍総計壹百六拾壹部、寄贈書籍総計壹百四拾八部、合計参百〇九部、○巢鴨宮仲に家二戸を建築し、一戸を改築す、○保険金総額壹萬八千六百貳拾円也、○教科書及び著書の検印合計八萬四千六百六拾五部、

歳末到来物如左

文房具	同文館	塩鯛	井上健兒
砂糖壺樽	押田翼	洋酒二罇	柏原
野菜壺俵	飯田義一	蜜柑	森良三郎
盆栽	伊沢修二	蜜柑	岩橋
鳴壺羽	吉田修夫	砂糖	田中義能
奈良漬	野田義夫	シヤツ	蠣瀬
雉子二羽及菓子	蓮沼門三	ビール券	三省堂
鰹節券	修養団	漬物と野菜	姉寄
鶏卵壺箱	笹川	漬物壺樽	豊田臻
真綿	井上成美	ビール半打	博文館
ビール壺打券	文成社	ビール壺打	山口察常
鶏卵壺籠	尾上八郎	風呂敷	広文堂
肴壺箱	多木悦造	飴	富田順吉
菓子	浅倉屋	ハンケチ	片岡某

商品券 大倉書店 風呂敷二ツ 林平次郎

鳴二羽 赤坂サイトウ 鴨七羽 黒田家

ハンケチ二打 六盟館 砂糖 目黒書店

ハンケチ壺打 弘道会 菓子 今福忍

砂糖壺箱 伊藤錦子 海老一籠 一宮弘人

菓子壺箱 高木武 菓子壺箱 中島慎一

葡萄酒半打 島本愛之助 からし漬 吉田静致

ネツクタイ其他 吉田雪子 真綿 晚成処

海苔 深作安文宅 砂糖 文明協会

洋酒三罇 丸善 墨二箇 日本経済

菓子壺箱 志水代次郎 菓物壺籠 吉田豊吉

味醂二罇 久保良英 菓子壺箱 齋藤愛子

漬物壺樽 金港堂 掛物 大倉喜八郎

書翰箋 小林義則 風呂敷 上原才一郎

巻烟草入 大野太衛 風呂敷 風呂敷

鰹節券 磯江潤 ジャボン 田邊

ビール壺打券 やまと新聞社 数の子粕漬 文栄閣

菓子 多賀羅亭 鶏卵 製本屋

◎明治四十年来著書検印総数如左

明治四十年……五六、一七二
 全四十一年……五六、四一九
 全四十二年……八二、八四三
 全四十三年……七〇、八二二
 全四十四年……六五、〇六六

全四十五年……	六七、一四五
大正二年……	五〇、八七五
大正三年……	六〇、二二一
大正四年……	九八、一〇〇
大正五年……	八四、六六五
大正六年……	八四、八三〇
大正七年……	一〇二、〇二〇
大正八年……	九〇、四三〇
大正九年……	九一、八〇三
大正十年……	七〇、四八八
大正十一年……	一〇一、五六〇

(むらかみ こそえ 東京大学文書館)
(もりもと さちこ 東京大学文書館)